全大則規律法

郵便條例
新聞紙條例
郵便小包法
出版法
電信條例
版權法
電話交換規則
集會及政社法
鐵道略則
徵兵令
鐵道貨物運送手續
徵兵事務條例
鐵道敷設法
徵兵檢查規則
土地收用法
國民軍條例
製茶稅則
國民兵召集規則
樟腦油稅則

文集館發行

204
433

CZ
5
0119

法律規則大全目次

○郵便條例
　○郵便條例附屬法
　○郵便小爲替規定
　○郵便爲替細則
　○郵便線路里程表
○郵便小包法
○電信條例
　○電信取扱規則
　○電信規則條例附屬法
○電話交換規則
○鐵道略則
○鐵道貨物運送手續
○鐵道敷設法
○土地收用法
　○土地收用協議會規則
○製茶稅則
○樟腦油稅則
　○樟腦油稅則施行規則
○新聞紙條例
○出版法
○版權法
　○寫眞版條例
○集會及政社法
○徵兵令
○徵兵事務條例
　○徵兵事務條例施行細則

○徴兵檢查規則
○國民軍條例
○國民兵召集規則
○陸軍六周間現役兵條例
○陸軍一年志願兵條例
○陸軍志願兵身體檢查規則
○陸軍志願兵徴集規則

法律規則大全目次終

法律規則大全

●郵便條例

第一章　郵便物

第一條　凡郵便物別テ四種ト爲ス

一　書狀　二　郵便葉書及往復葉書　三　毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄　四　書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、罫紙、營業品ノ見本及雛形、農產物種子

第二條　何品ヲ問ハス此條例ニ牴觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條　封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條　第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條　第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一　截斷又ハ破却シタルモノ　一　稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ　一　稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ　一　紙配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク其他ノ品ヲ貼付シタルモノ　一　葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ　一　表面ニ音信文ヲ

記載シタルモノ

第六條　第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ遞信省ノ認可ヲ受ケ[illegible]省認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條　第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條　第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條　營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條　營業者ニアラサルモノヽ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條　異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條　郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條　第三種第四種郵便物（營業品ノ見本及雛形ヲ除ク）ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條　營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量百匁ニ超過スヘカラス

第十五條　郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條　左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一毒藥劇藥、爆發燃燒シ易キ物品　流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品　金銀、寶玉　貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章　郵便稅

第十七條　郵便稅ハ郵便物ノ種願ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物　重量二匁毎ニ（二匁未滿亦同シ）　二錢

第二種郵便物　葉書一葉　一錢
　　往復葉書一葉　二錢

第三種郵便物　一號一個重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　五錢
　　二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　一錢

第四種郵便物　重量三十匁毎ニ（三十匁未滿亦同シ）　二錢

第十八條　郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但電信局長ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條　納稅ニ用ヒタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便電信局郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條　郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印消滅ノ後ハ之ヲ還付セス

第二十一條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收ス、ル

受取人其郵便物ヲ受取タルトキハ廿納稅ヲ拒ムヘカラス　受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條　第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノ納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條　人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便電信局郵便切手ヲ郵モノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スルトキハ郵便電信局ニ於テ郵便切手ヲ郵

第二十五條　未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便切手ヲ捺シ其證ヲナスヘシ便物ニ貼付シ其ノ手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證ヲナスヘシ

第三章　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便稅納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數料竝別配達料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條　郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條　郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第三十條　郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條　郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ遞信管理局ニテ賣下クヘシ

第三十二條　郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ一等郵便電信局長一等郵便局長ノ免許ヲ受ク郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條　郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條　郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條　郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條　郵便切手竝封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レトモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立

ヲ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ一等郵便電信局一等郵便局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條　遞信管理局及一等郵便電信局郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章　免稅郵便

第三十八條　郵便　郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條　免稅郵便物ハ遞信省遞信管理局郵便電信局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條　免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條　官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條　人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條　免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章　書留郵便

第四十四條　書留郵便物ハ郵便電信局郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス

第四十五條　書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條　書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條　書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條　書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務省ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務省ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ

第四十九條　書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條　免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章　郵便物遞送配達

第五十一條　郵便物遞送配達ハ郵便電信局郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條　郵便物ノ廢置ハ遞信大臣新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條　郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛テタルモノハ其內ノ一名ニ配達スヘシ肩書（寄宿所ノ類以下之ニ倣フ）アルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條　完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外配達料舟船料貨幣遞送貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條　郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結果ヲ脫シ或ハ書信文ヲ讀過スルトキ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ

但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條　郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ差出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條　其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條　配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其內ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條　第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十一條　差立前ニ係ル郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十二條　第四種郵便物ハ其郵便物受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十三條　遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便電信局郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六十四條　郵便電信局郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス

第六十五條　郵便物ノ差出人ノ爲メ郵便電信局郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條　郵便物ノ損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ遞信省之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條　書狀ハ郵便電信局郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス　送達ヲ排ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ　郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ　貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡內國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ遞信省遞信管理局又ハ郵便電信局郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ニ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ定約アルモノハ此限ニアラス　第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額　第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條　郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノハ其出發ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便電信局郵便局ニ屆出ツヘシ

第七十條　時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條　郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條　郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條　郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便電信局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書往復葉書ノ交付ヲ求メラルヽトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章　別配達郵便

第七十四條　別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條　別配達別テ二種ト爲ス

一　市内（郵便電信局又ハ郵便局所在地）別配達　二　一市外（郵便電信局又ハ郵便局未設地）別配達

第七十六條　市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條　市外別配達料ハ配達ノ郵便電信局郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス八十町未滿亦同シ

第七十八條　別配達ハ郵便稅並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條　別配達料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條　市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收スヘシ

第八十一條　市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條　船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第八十三條　市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徵收スヘシ

第八十四條　別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船艀料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條　別配達ハ各郵便電信局郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條　甲郵便電信局郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便電信局郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條　市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條　市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便電信局郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便電信局郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條　別配達トノミ記載セルモノハ各郵便電信局郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其他ノ郵便電信局郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條　別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條　免稅郵便物ハ別配達料艀船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章　郵便私書函

第九十二條　郵便私書函ハ郵便電信局郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條　私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條　私書函貸與料ハ一ケ月金三圓以下ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第九十五條　私書函貸與期限ハ一ケ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條　私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條　私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條　私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章　留置郵便

第九十九條　留置郵便物ハ表記地名ノ郵便電信局郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第百條　留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便電信局郵便局留置ト記載スヘシ

第百一條　留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第百二條　留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第百三條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第百四條　留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限內ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章　貨幣封入郵便

第百五條　貨幣封入郵便物ハ內信局長ー約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第百六條　貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第百七條　貨幣遞送賃及配達賃額ハ遞信大臣各郵便電信局郵便局ニ揭示スヘシ

第百八條　封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第百九條　封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條　貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條　貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

第百十三條　貨幣封入郵便ヲ差出ストキハ郵便電信局郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便電信局郵便局ノ印ノ捺シ且主務者記名調印セル

受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條　本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之レト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條　貨幣封入郵便物中貨幣封入アルヲ郵便電信局郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便電信局郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條　貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額並還付ノ貨幣遞送賃及配差賃ヲ徴收スヘシ

第百十七條　貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百十八條　貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條　貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣封遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條　貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百二十一條　郵便電信局郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條　貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ强盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノヽ他約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章　郵便沒書

第百二十三條　郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ遞信省ニ沒入スルモノトス

第百二十四條　遞信大臣ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試ミシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條　沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間遞信省ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ遞信省ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ品物ハ之ヲ買却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條　沒書ヲ一ケ年內ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手數料ヲ徴收セスト雖トモ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其手數料十分一ヲ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十七條　沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證トスヘシ但遞信省ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章　郵便爲替

第百二十九條　郵便爲替ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條　爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ハ遞信大臣新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三十一條　爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條　爲替料ハ遞信大臣之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ニ掲示スヘシ

第百三十三條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便電信局郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第百三十四條　爲替差出人ハ郵便電信局郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第百三十五條　爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第百三十六條　爲替差出人ハ其振出人ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替ヲ返付セスルトキ又爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキハ爲替貯金局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第百三十八條　爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便電信局郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第百三十九條　爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキ亦同シ

第百四十條　爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第百四十一條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十二條　官衙社寺會社ニ宛テタル爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ稱名ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十三條　官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第百四十二條ニ依ルヲ得

第百四十四條　官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第百四十二條第百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第百四十五條　爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第百四十六條　効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ爲替貯金局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第百四十七條　爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキ

ハ爲替貯金局長新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手數料トシテ徴收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尚ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第百四十八條　爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ爲替貯金局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條　爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條　爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ両様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條　再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ爲替貯金局ニ納付スヘシ

第百五十二條　爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第百五十三條　爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條　爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條　郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條　此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ遞信省ハ其責ニ任セス

第十三章（第百五十七條ヨリ第二百二條迄ハ二十三年八月十二日法後第六十三號郵便貯金條例公布ニ依リ廢止ス）

第十四章　外國郵便

第二百三條　凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一　書狀　二　郵便葉書及往復葉書　三　書籍、各種ノ印刷物、寫眞、書圖　四　詞訟上及商用上ノ書類　五　商品ノ見本

第二百四條　何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條　第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條　第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條　第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條　第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量二「キログラム」（凡五百三十二匁四分零ノ毛）ニ超過スヘカラス

第二百九條　第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」（凡七寸三分二厘）厚五「サンチメートル」（凡一寸六分二厘）又其重量ハ二百五十　グラム」（凡六十六匁二分五厘）超過スヘカラス

第二百十條　第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條　第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條　第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條　第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條　左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

貨幣又ハ高價ノ物品　關稅ヲ拂フヘキ物品　流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物　鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品　第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條　郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少ク共モ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條　郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條　第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條　書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條　郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外增手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條　郵便稅書留手數料及增手數料ハ日本郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條　郵便稅書留手數料增手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ遞信大臣公告スヘシ

第二百二十二條　書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノヽ外之ヲ紛失シタル國ノ主管廳ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」（「フランク」ハ凡金貨廿錢若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國遞送中紛失シタルトキハ郵便電信局郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限

一第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額、一第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條　第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條　第十二條第十九條第二十條第二十一條第三項第二十二條第二十三條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九第條六十一條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第二百二十二條ノ贈金ヲ除ク第六十九條第七十條第二百二十二條ノ贈金ヲ除ク第七十三條第九十九條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ內國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章　罰則

第二百二十七條　第十六條第三十三條第六十四條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條　第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條　第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條　第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條　郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條　疎慢懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條　有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情テ知テ其郵便物ヲ遲送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條　不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條　遞信省ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ遲信省認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條　未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料解繳料貨幣遲送配達貨私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料解繳料貨幣遲送配達貨私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條　郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條　郵便爲替事務ヲ奉スルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十三條　郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條　郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條　郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十六條　郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ科料ニ處ス

第二百四十七條　渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十八條　第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條　第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百三十

十三條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條　本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

◉郵便條例附屬法

◉官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ附スルトキ取扱方

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ左紙ノ重量ニ超過シタル附錄ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

◉郵便電信局郵便電信局郵便又ハ電報受付時限

郵便電信局郵便局電信局ニ於テ郵便又ハ電報ヲ受付ケル時限左ノ通改定ス

但別配達郵便物受付ハ此限ニアラス

一毎年三月一日ヨリ十月三十一日マテ午前六時ヨリ午後十時マテ

一毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ午前七時ヨリ午後十時マテ

◉郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ノトキ取調方

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナル時ハ郵便電信局郵便局ニリ其地戸長役場ノ取調ヲ乞フ義モ可有之ニ付其際ハ故障ナク其求メニ應セシム可シ

◉郵便物表書記載方ノ注意

町村制實施ノ爲メ新ニ分合シタル町村ノ區域ハ郵便局配達受持區域ト同シカラサルモノ數多有之就テハ郵便物ノ表書宛名人ノ住所ニ新町村名ト番地ノミ記載スルトキハ其地ニ就クニアラサレハ甲乙郵便局中孰レノ受持區ニ屬スヘキカヲ豫知スル能ハス取扱上手數ヲ重子自然到達運延ヲ生スルモノアリ依テ郵便物差出人ニ於テハ一層注意ヲ加ヘ當分ノ中新町村名ト番地ノ外必ス其大字ナル舊町村名ヲモ記載スヘシ

◉郵便物ヲ積載セル船舶難破等ニ罹リ航送シ能ハサル場合ニ於テ戸長浦役人處分方

郵便物ヲ積載セル船舶ノ難破等ニ罹リ其積載ノ郵便物ヲ航送シ能ハサル場合ニ在ヲ其船長又ハ代理人ニ於テ遭難最寄地ノ戸長役場若クハ浦役場ニ送致シタルトキハ其送致ヲ受ケタル戸長役場浦役場ハ送致者ヘ受領書ヲ交付シ其郵便物ニ相當保護ヲナシ速ニ最寄郵便局ニ送達セシムヘシ

但戸長役場又ハ浦役場ニ於テ要シタル費用ハ所轄地方廳ヲ經由其地所管ノ遞信管理局ニ請求セシムヘシ

◉第四種郵便物トシテ差出ヘキ營業品見本及雛形ノ帶紙包紙ニ記載方

第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業品見本若クハ營業品雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ一方營業者ナルトキハ其一方ニノミ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト　做シ取扱ヒヲ爲スヘシ

◉第三種認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外課税方

第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外ハ次號ノ發行期ヲ待ツ能ハサル緊急ノ時事ヲ報道スルモノニ限リ第三種郵便物トシ其他ハ總テ第四種郵便物トス

◎定時刊行物休廢刊改題届出方

定稅遞送ヲ認可シタル定時刊行物ノ休廢刊又ハ改題ノ義届出ノ際ハ當初其認可シタル年月日ヲ之レニ附記ス可シ

◎定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱ノ認可出願方

目今定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱ノ認可ヲ出願スル者ハ願書面ニ其印刷物ノ標題竝發行ノ回數及定日ヲ記載シ且見本ヲ添付シ差出スヘシ

◎第三種郵便物遞送認可願書ノ件

第三種郵便物遞送認可願書ハ副本ヲ要セス

◎第三種郵便物認可規則

第三種郵便物認可規則

第一條　第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添ヘ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號　二　記載事項ノ性質種類　三　發行ノ定日　四　發行所　五　發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名本條ノ規定ニ遵由セサル願書ハ之ヲ受理セス

第二條　前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ

一　毎月一回以上遞號定期發行スルコト　二　記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト　三　書籍ノ性質ヲ有セサルコト　四　發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論識スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

本條證明ヲ爲サヽル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス

第三條　認可ヲ受ケタル定時印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、遞信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ

第四條　認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人(代表人)ヨリ七日以內ニ届出ツヘシ

一　題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ　二　發行人轉居又ハ變更ノトキ但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ　三　廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ

第五條　認可ヲ受ケタル印刷物ニシテ前條届出ノ有無ニ拘ハラス第二條ニ記載シタル條件ノ一ヲ闕クニ至リタルトキハ其認可ヲ取消スヘシ認可ノ取消ハ其達書ヲ發行人ノ住所ニ送達シタル翌日ヨリ効力ヲ生スルモノトス

認可ノ取消ヲ受ケタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス（同上ヲ以テ改正）

第六條　第四條ノ届出ヲ期限內ニ爲サヽルトキハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條　本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人（代表人）ハ本令第一條及第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其効ヲ失フ

配達證明郵便規則

第一條　配達證明郵便ハ配達局ノ證明書ヲ以テ其郵便物ノ正ニ配達シタルコトヲ證明スルモノトス

第二條　郵便差出人其郵便物配達ノ證明ヲ得ントスルトキハ之ヲ差出局所ニ請求スルコトヲ得

第三條　配達證明書ハ配達局ヨリ之ヲ差出人ニ送付ス可シ

第四條　配達證明郵便ハ書留郵便物ニ限ルモノトス

第五條　配達證明手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス三錢トス

其手數料ハ前納ニ限ルヘシ

第六條　配達證明手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第七條　配達證明郵便物ハ其表面ニ配達證明ト記載スヘシ

第八條　此規則ハ外國郵便ニ適用セス

郵便小包法

第一條　小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取所ニ限ルヘシ

第二條　小包郵便ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達又ハ留置トナスコトヲ得

配達證明又ハ別配達ハ一般ノ規則ニ依リ別ニ相當ノ手數料ヲ徵收ス

第三條　小包郵便物ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵便物ヲ送ラントスルトキハ最寄取扱局留置又ハ別配達トシテ差立ルコトヲ得

第二章　差出

第四條　小包郵便物ハ表面ニ差出人受取人ノ宿所氏名及小包ノ文字ヲ記載シ小包郵便取扱所ニ差出シ其ノ受取證書ヲ受クヘシ

郵便函ニ投入シタルモノト雖モ之ヲ小包郵便物ト爲サス

總テ通常郵便物トシテ取扱フヘシ

第五條　小包郵便物ハ送票（甲號）ニ式ノ如ク記入シ其ノ郵便料並ニ手數料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添フヘシ

但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス

第六條　小包郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ外包ヲ破却スルニアラサレハ内品ニ損傷ヲ被ラシムルコト無キ樣充分ノ手當ヲ爲スヘシ

價額登記ノ小包郵便物ハ其ノ外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ能ハサル樣堅固ニ包裝シ之ニ三箇所以上封印ヲ施スヘシ

第七條　貨幣、紙貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶玉細工物ノ類ハ蓋付ノ箱又ハ堅固ナル蓋付ノ箱類ニ納メ內品ノ動搖セサル樣詰込ミ其ノ蓋ノ合セ目ニ錫蠟等ヲ注キ若ハ蓋ヲ釘著トナシ麻繩若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之ヲ封緘スヘシ

郵便切手、端書、封皮、帶紙其ノ他諸印紙類及有價證券、手形類モ亦前項同樣ニ包裝封緘スヘシ

郵便局ノ承認ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモノハ其ノ品質ニ應シ鑵又ハ箱其ノ他適當ノ包裝ニ依リ充分ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ樣手當ヲナシ其ノ品名ヲ表面ニ明記スヘシ

第八條　小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人ヲシテ更ニ之ヲ改裝セシムヘシ

第九條　小包郵便物ハ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ

但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其ノ郵便物ニ記載シ難キモノハ厚紙若ハ木札等ヲ附着シテ之ニ記載スヘシ

第十條　小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ宿所氏名、職業家號、符號商標、及年月日ニ限ルヘシ

但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス

第十一條　郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包入シタリト思料スルトキ又ハ表記品名ト包中物品ト相違セリト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出人又ハ受取人

ヲ立會ハシメ之ヲ開封檢査スルコトヲ得

第十二條　小包郵便物差出人其ノ差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿所ニ關シ或ハ異動アルヘシト掛念スルトキハ豫メ之カ還付ヲ差立局所ニ請求シ置クコトヲ得

第三章　料金

第十三條　小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ

但差出人ニ還付ノ場合ハ此限ニアラス

第十四條　小包郵便料ニ關スル里程ハ遞信省ニ於テ定メタル里程表ニ依ル

差立配達トモ郵便局ヲ同シクスルモノハ最近里程ノ率ニ依ル

第十五條　小包郵便物ノ重量ハ總テ郵便局所ノ秤量ニ依ルヘシ

第十六條　小包郵便物ヲ轉送又ハ還付スルトキハ其ノ轉送又ハ還付ノ里程ニ從ヒ更ニ郵便料ヲ徵收ス

但其ノ轉送若ハ還付ニシテ同一郵便局內ニ止リ其ノ料金ニ異動ヲ生セサルモノハ此限ニアラス

第十七條　轉送又ハ還付ノ郵便料ハ之ヲ差出人ヨリ徵收ス

第二十七條及卅三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ヲ請求シタルモノハ之ヲ受取人ヨリ徵收ス

第十八條　小包郵便物ノ受取人別配達料若ハ艀船料ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包郵便物ハ差出人ニ還付シ本條ノ料金ヲ併徵スヘシ

但小包郵便物ノ受取人自ラ其ノ轉送又ハ配達ヲ請求シタル場合ニ於テハ本條料金ノ

金ノ納付ヲ拒ムコトヲ得ス若シ其ノ郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ更ニ原留置局又ハ原到着局マテ回送スル郵便料及本條ノ料金ヲ併納スヘシ

第十九條　未納料金又ハ不足料金ヲ徴収スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ送票ニ加貼シ未納又ハ不足ノ印ヲ捺スヘシ

第二十條　價額登記小包郵便物ノ轉送還付ニ對シテハ別ニ其ノ保險料ヲ徴収セス

第四章　留置

第二十一條　小包郵便物ヲ留置トナサントスルトキハ差出人之ヲ差立局ニ請求シ其ノ留置證ヲ申受クヘシ

小包留置證ハ差出人ヨリ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第二十二條　留置小包郵便物到着シタルトキハ其ノ留置局ヨリ直ニ其ノ通知書ヲ受取人ニ發スヘシ

但受取人ノ宿所ヲ記載セサルモノハ此限ニアラス

第二十三條　小包郵便物ノ留置期限ハ其ノ到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス

但交通不便ニシテ其受取人本文規定ノ日限内ニ出局スルコト能ハサル地ハ出局シ得ヘキ最短日限マテ特ニ之ヲ留置スルコトアルヘシ

其期限ヲ經過シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

第二十四條　留置小包郵便物ヲ受取ラントスルトキハ小包留置證ニ記名調印シテ之ヲ差出シ受取人タルコトヲ證スヘシ

但留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニ在テハ第二十五條第三項ニ依リ証明書ヲ以テ受取人タルコトヲ証シ別ニ受領証ヲ差出スヘシ

第二十五條　留置小包郵便物ノ受取人其ノ留置證ヲ失ヒタルトキ又ハ通知書到達ノ後尚留置證ノ送達ヲ受ケサルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ報スヘシ

差出人前項ノ報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ留置證ヲ失ヒタルトキハ最初小包郵便物ヲ差出シタル局所ニ就キ其ノ受取證書ヲ證トシテ留置證ノ謄本ヲ申受ケ之ヲ受取人ニ送付スヘシ若シ其受取証書モ倶ニ失ヒタルトキハ確實ナル保証人ヲ立テ其事由ヲ証明スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ留置期限ノ相當猶豫ヲ留置局ニ請フコトヲ得

第二十六條　留置小包郵便物ノ受取人其ノ代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ其ノ留置證ノ裏面ニ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ其ノ代人該小包ヲ受取ル手續ハ第二十四條ニ依ル

但留置証ヲ差出シ能ハサル場合ニ於テハ代人ノ氏名及之レヲ委任スル旨ヲ記載シタル正當ノ委任狀ヲ差出スヘシ

第二十七條　留置小包郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ小包郵便物ハ配達還付若ハ轉送ヲ其ノ留置局ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ轉送ノ上更ニ留置ヲ請求スルモノヽ外其ノ留置證ハ總テ無効トス

第二十八條　郵便局ニ於テ小包郵便物取扱中包裝損傷シタルトキハ相當ノ手當ヲ施シ其

ノ旨ヲ記シ取扱者ノ捺印ヲ捺スヘシ

第二十九條　小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ其ノ配達證書ニ調印シ之ヲ受取ルヘシ

同居ノ家族雇人之ヲ受取ルトキハ其ノ旨ヲ記載シ本人ニ代リテ記名調印スヘシ

肩書ノ家ニ於テ之ヲ受取ルトキハ其ノ家主記名調印スヘシ

官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會船舶等ニ於テ之ヲ受取ルトキハ相當ノ資格アルテノ其ノ配達證書ニ記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第三十條　小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ未タ配達證書ニ調印セサル前ニ於テ其ノ小包郵便物ヲ開封スルコトヲ得ス

若シ之ヲ開封シタルトキハ異議ナク其ノ郵便物ヲ受取リタルモノトナスヘシ

第三十一條　小包郵便物受取人不在等ノ事故ニ依リ初度配達ノ際之カ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ一週間内便宜配達ヲ試ミ尚之ヲ配達シ能ハサルトキハ差出人ニ還付スヘシ

但別配達ノモノニシテ配達郵便局ノ區外ニ達スヘキモノハ再ヒ配達ヲナサス直ニ之レヲ差出人ニ還付スヘシ其區内ニ達スヘキモノモ爾後ノ試配達ハ凡テ通常配達便ニ依ル

第三十二條　小包郵便物ノ受取人移轉シタルトキハ郵便局ハ速ニ差出人ニ向ケ送票（乙號）ヲ發シ之ヲ轉送スヘキカ又ハ之ヲ還付スヘキカヲ問合スヘシ差出人此問合ヲ受ケタルトキハ送票（乙號）中希望ノ欄ヲ存シ不用ノ欄ハ總テ之ヲ塗抹シ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ

但小包郵便ノ取扱ヲナサヽル郵便局ノ區内ニ移轉シタル時又ハ第十二條ニ依リ豫メ還付ヲ請求シタルモノハ直ニ之ヲ還付ス

其ノ轉送スヘキ地同一郵便區内ニシテ轉送料ヲ增徵スルコトヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ配達スヘシ

第三十三條　小包郵便物ノ受取人ハ其ノ小包郵便物ノ轉送ヲ其到着局ニ請求スルコトヲ得

但前條ニ依リ差出人ニ向ケ送票（乙號）ヲ發シタル後ニアリテハ此ノ請求ニ應セス

受取人前項ニ依リ轉送ノ請求ヲナシタルトキ又ハ第二十七條ニ依リ留置小包郵便物ノ轉送ヲ請求シタルトキハ郵便局ハ其ノ受取人ニ向ケ送票（丙號）ヲ發スヘシ此ノ場合ニ於テハ差出人ニ向テ前條ノ問合ヲナサヽルモノトス

受取人送票（丙號）ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ

第三十四條　第三十二條及第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ニ向ケ送票ヲ發シタル後普通郵便往復日限ヲ經過スルコト五日ニ至ルモ尚其ノ送票ヲ返送セサルトキハ其ノ小包郵便物ハ差出人ニ還付スヘシ

第三十五條　小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ受取人之カ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

但破損ノ痕迹トハ之ニ依リテ其ノ內品ヲ損傷シタルヘシト認ムル程ノ著大ナルモノニ限ル又遲送中ニ於ケル普通ノ摩擦若ハ濕濕乾燥等ノ故ニ依リテ增減シタル重量ノ異動ハ本條ノ限ニアラス

前項ニ依リ小包郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ其事由書ヲ認メ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條　受取人前條ニ依リ小包郵便物ノ受取方ヲ拒ムトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調查シ相當理由アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

若シ郵便局ニ於テ相當理由ナキモノト認ムルトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調查スヘシ

第三十七條　小包郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ其ノ差出人小包郵便取扱局ノ郵便區外ニ在ルトキハ最寄小包郵便取扱局ニ留置キ其ノ旨ヲ通知スヘシ

差出人其ノ通知ヲ受ケタルトキハ最初受領シタル受取證書ヲ差出シ其ノ差出人タルコトヲ證シテ之ヲ受取ルヘシ

代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ代人某ニ受取方委任スル旨ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第三十八條　通知書ヲ發シテ十五日以內ニ尙其ノ受取方ヲ請求セサルトキハ配達還付シ能ハサル郵便物トシテ處分スヘシ

第三十九條　第三十五條及第三十六條ノ規定ハ差出人カ其ノ小包郵便物ノ還付ヲ受ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

但受取人カ第三十五條第二項ニ依リ事由書ヲ附シタル小包郵便物ニ對シテモ差出人ハ更ニ濾付ヲ受ケサル事由書ヲ配達人ニ交付スルヲ要ス

第四十條　差出人前條ノ事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルトキハ速ニ郵便局ニ出頭シ若ハ相當代人ヲ差出シ尙其ノ事由ヲ陳述スヘシ

第四十一條　差出人前條ノ手續ヲナストキハ郵便局ハ其ノ出頭人ヲ立會ハシメ郵便物ヲ開封シテ損害ノ有無ヲ檢查シ果シテ損害アルコトヲ認ムルトキハ損害證明書二通ヲ作リ其ノ一通ヲ出頭人ニ交付スヘシ

第四十二條　差出人還付ヲ受ケサル事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルノミニテ第四十條ノ手續ヲ爲サヽルトキハ郵便局ヨリ其ノ差出人ヲ召喚スヘシ若シ其ノ召喚ニ應セサルトキハ異議ヲ取消シタルモノト看做シ其ノ郵便物ハ之ヲ還付スヘシ此場合ニ於テ差出人ハ之カ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條　第四十一條ニ依リ損害證明書ヲ作リタル小包郵便物ハ其ノ賠償處分ノ結了ニ至ル迄之ヲ郵便局ニ留置クヘシ其ノ賠償ヲ請求セサルモノハ速ニ之ヲ差出人ニ還付

スヘシ

第四十四條　配達還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便沒書取扱ノ例ニ準ス

前項ノ取扱ニ附シタル小包郵便物ヲ更ニ送達スルトキハ第十六條ニ依リ料金ヲ徵收ス

第六章　賠償

第四十五條　小包郵便物損害ノ賠償ハ其ノ差立局所ヲ管スル一等郵便局ニ之ヲ請求スヘシ

損害賠償ヲ請求スルニハ其ノ品名箇數實價請求金額竝ニ之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ作リ差立ノ際受取リタル受取證書ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ其ノ損害證明書ヲ受取リタルモノハ尙之ヲ添フヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スルトキハ前項請求書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　小包郵便物受取證若ハ損害證明書ヲ失ヒ之ヲ前條請求書ニ添ユルコト能ハサルモノハ當該郵便局ニ就テ其ノ謄本ヲ申受クルコトヲ得

第四十七條　賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一　全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　登記金額

第二　幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　殘存ノ價額ト登記金額トノ差

但登記ノ價額實價ニ超過スルモノハ總テ之ヲ賠償ヲナサス

第四十八條　通常小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一　全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　重量百匁ニ付金拾錢ノ割合

第二　幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　損害部分ニ對シ重量百匁ニ付金拾錢ノ割合

第四十九條　損害ノ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郵便料必付ノ請求アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ返付ス

第一　全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　料金ノ全部

第二　幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ　亡失毀損セル部分ノ重量ニ對スル料金

但料金算出方ハ既納料金ノ比例ニ依ル

第五十條　損害賠償ノ請求ヲ受ケタル一等郵便局ニ於テハ其ノ請求ノ當否ヲ審査シ賠償ヲ要セサルモノト認ムルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知シ其ノ賠償ヲ要スルモノト認ムルトキハ第四十七條及第四十八條ニ依リ賠償金額ヲ定メ之ヲ請求人ニ通知スヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スル場合ニ於テハ其ノ返付ニ關スル決定ヲ其ノ通知書中ニ記載スヘシ

第五十一條　賠償請求人前條ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ該郵便局ニ不服ノ申立ヲ爲サヽルモノハ不服ナキモノト看做シ假ニ之カ處分ヲ爲スヘシ

前項ノ期限內ニ不服ノ申立ヲ爲サヽルモノト雖モ差出人ノ隨意ニ之ヲ取消シ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條　小包郵便物毀損ニ對スル損害賠償ノ請求ハ其ノ處分結了ニ至ル迄何時タリトモ差出人ノ隨意ニ之ヲ取消シ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條　亡失小包郵便物ノ賠償ヲ爲シタル後該郵便物ヲ發見シタルトキハ郵便局ハ

之ヲ差出人ニ通知スヘシ

第五十四條　亡失小包郵便物發見ノ通知ヲ受ケタルモノ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ヲ作リ該通知書ヲ添ヘテ之ヲ差出シ同時ニ最ニ受取リタル賠償金及郵便料ヲ返納スヘシ

◎小包郵便物ノ郵便料保險料賠償金額容積重量及價額登記制限

脫小包郵便物ノ郵便料保險料賠償金額、容積、重量及價額登記制限ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條　削除

第三條　小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

容積長曲尺二尺幅曲尺二尺但幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限リ差出スコトヲ得

重量　壹貫五百匁

第四條　小包郵便物ノ登記價額ハ金百五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　價額登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額壹圓マテ金七錢トシ壹圓以上ハ壹圓マテ毎ニ金壹錢ヲ加フ

第六條　通常小包郵便物ノ損害ニ對シテハ重量百匁ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

第七條　價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額マテ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ登記金額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

附　則

第八條　小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ遞信大臣隨時之ヲ告示ス

（別表）

小包郵便料				
	二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ	八百匁マテ
十里迄	五錢	七錢	九錢	拾一錢
百里迄	八錢	拾二錢	拾六錢	貳拾錢
百里以外	十六錢	二十四錢	三十二錢	四拾錢

一貫匁マテ	一貫二百匁マテ	一貫五百匁マテ	二貫匁マテ
貳拾四錢	貳拾八錢	三拾二錢	三拾六錢
四拾八錢	五十六錢	六拾四錢	七拾二錢

郵便小爲替規定

第一條　郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ三圓以下トシ端數ハ端位ヲ限リトス

第二條　爲替料ハ小爲替證書壹枚ニ付三錢トス

第三條　小爲替ノ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條　爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ルヘシ

第五條　爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條　小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ

但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條　爲替受取人ハ爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第八條　爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ

第九條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ

第十條　小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス

第十一條　郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ拂渡サヽルモノトス

但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第十二條　左ニ揭ク場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スルヲ得

但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得

一　小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ　二　小爲替證書ヲ失ヒタルトキ　三　小爲替證書毀損汚涜シ點檢上支障アルトキ

第十三條　再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ

第十四條　小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セス

◉郵便爲替細則

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

◉郵便爲替細則

第一章　總則

第一條　郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ拂込ミタル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ拂渡スモノトス

第二條　爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セス其氏名宿所等ハ差出人ノ指示スル處ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙振渡局ニ報知スルモノトス

第三條　爲替金額圓位以上ノモノハ驛遞總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人ノ望ニ依リ電信ヲ以テ報知スルコトヲ得

第四條　爲替證書ハ驛遞局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ

第五條　爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及手數料ヲ前納スヘシ但電信ヲ以テ爲替ヲ報告スルコトヲ望ムトキハ別ニ電報料ヲ納ムヘシ

爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及手數料ハ便宜原爲替證書金額ノ內

ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條　爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサルトキ或ハ差出人又ハ受取人自ラ證書再渡ヲ請求シ能ハサルトキハ代人ヲ立テ爲替願書又ハ請求書ニ本人記名調印シ代人亦代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ但別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シテ差出ストキハ此限ニアラス

爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替書相當ノ位置ニ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ

第七條　爲替ニ屬スル金錢ヲ受領スルトキハ相互目前ニ於テ之ヲ計算スヘシ

第八條　差出人ニハ振出局ニ於テ其拂込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ

差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シテ之ヲ保存シ後日爲替金ノ返戻又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證憑トナスヘシ

第九條　爲替受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事實ヲ證明シ證人ヲ立テ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條　爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル願書證書等ニ調印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ヘシ

第十一條　爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受授ニ關スル願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條　爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ滿足スヘキ證人ヲ立テ又ハ正當受取氏名等ヲ陳述スヘシ

又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ屬シ該吏員ニ屆示シ若クハ之ヲ差出スヘシ

第十三條　爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノアルトキ左ニ揭クル事故アル場合ニ在リテハ郵便局ニ於テ拂渡停延書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交付ヲ停延スルコトアルヘシ

一　爲替證書調製上違式ノトキ若クハ之ヲ差出スヘキ證據物ヲ該吏員ニ屆示シ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ

二　爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條　規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止スルモノトス

第十五條　爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ揭示スヘシ

爲替取扱休日ハ左ノ如シ

一月一日二日三日　新年宴會　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭　天長節　新嘗祭　日曜日

第十六條　曜遲局ト版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ受クヘシ

第二章　爲替振出

第十七條　爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ヲ

添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及受領證書ニ依ルトキハ受收スヘシ（其爲替電信ニ依ルトキハ受領證ヲ要セス）

其爲替願書ニハ受取人人違ノ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ略符等ヲ記附スルモ妨ケナシ但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調止差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿所ハ其詳畧ヲ掛酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲替金ヲ受クルニ便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ願書ニ本字ヲ以テ記載シタル差出人受取人ノ宿所氏名ノ傍ニ片假名文字ヲ附記スヘシ

第十八條　爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ拂込金ニ對スル受領證書ト共ニ之ヲ差出人ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ヲ其名宛ノ郵便局ニ報知スヘシ但電信ニ依ルトキハ其特則ニ據ルヘシ

第十九條　爲替願書ニハ差出人又ハ受取人二名以上連帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載スヘシ

第二十條　差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ本籍住所ヲ記載シ尚其宿所ヲ附記スヘシ

第廿一條　差出人ハ受取人ニ於テ拂渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ニ記載アル諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ（其爲替電信ニ依ルトキハ通知セサルモ妨ケナシ）但詐僞ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ還送スル信書トナルヘク同時ニナスヘシ

第二十二條　代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトキモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ一般ノ例トス但其氏名ヲ報知スルコトヲ望ムモノ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場合ハ此限ニアラス

第二十三條　差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違シタル事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ但電信ニ依リ爲替ヲ報知シタル場合ニ在リテハ相當ノ電報料ヲ納ムヘシ

第二十四條　差出人爲替金ノ拂戻ヲ要スルトキハ前ニ受收シタル拂込金受領書ヲ振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ但受領證書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番號及振出月日等ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章　爲替拂渡

第二十五條　爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル振渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後拂渡スモノトス

第二十六條　爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辨等爲替報知書ニ符合セサルカ又ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ拂渡局ニ於テ受取人ニ拂渡停延書ヲ交付シ其事故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停延書ノ滿期ニ至リテ更ニ爲替金ノ拂渡ヲ申出テ尚ホ規則ノ通手數ノ上爲替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條　若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金額ニ過不及アリテ證書金額ノ誤ナルコト別明シタルトキハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現實受取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名調印シ其他ヲ受取ルコトヲ得

第四章　爲替證書再渡

第二十八條　爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次キニ掲クル第二十九條乃至第三十一條ニ從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上阪ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經由シテ驛遞局ニ請求スヘシ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一　爲替證書紛失シタルトキ又ハ汚斑毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニナリタルトキ

一　爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受クルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻ヲ受クルコトヲ要スルトキ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ爲替受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

一　爲替證書ニ示ス拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ノ爲メ拂渡局ノ變更ヲ要スルトキ

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人又ハ受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但差出人ヨリ請求スルトキハ拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一　爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章　電信ニ依ル爲替ノ特則

第三十二條　電信ニ依テ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ拂込金ニ對シ受領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ廻書ノ諸件ヲ電報スヘシ

第三十三條　拂渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通報スヘシ

受取人ハ拂渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ拂渡局吏員ニ差出シ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十四條　前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以內ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサルトキハ拂渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尙七日以內ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差出人ニ交付スヘシ

第三十五條　拂渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ通報スヘシ

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受收シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ト引換ヘ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條　前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再度電報ニ依リテ其爲替金ヲ受授スルコトヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尙其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムトキハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

第六章　爲替金渡濟通知

第三十七條　爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條　爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取リ卽日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條　爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條　通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス

第四十一條　爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セス

第四十二條　通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書（港信爲替ハ領收證書）ニ通知料納濟ノ印ヲ押捺シ交付スヘシ

第四十三條　受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記名調印スヘシ又小爲替ニアリテハ其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條　爲書金渡濟ノ通知ヲ脫漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條　通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月內ニ差出人ヨリ請求スヘシ此期限ヲ過クルトキハ之ヲ還付セス

郵便線路里程表明治九年三月第二十四號ヲ以テ相達置候處爾後道路里程伸縮相生シ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相達候事

（別表）

東京ヨリ各府縣ヘノ實測里程一覽表

（○里位●丁位◎間位以下尺位）

府縣名	元標地名	里程	府縣名	元標地名	里程
東京	日本橋		福島	上町	陸奥街道通リ 七〇三〇◎三
京都	三條大橋	東海道通リ 一三〇〇二四●四〇◎四	岩手	盛岡	仙臺通リ 一四〇〇一九●四六◎
大阪	高麗橋	京都ヲ經テ 一四三〇二六〇一一〇◎一	青森	米町	同 一九一〇二七●五〇◎三 米澤通リ 二〇二一〇二三〇二七◎二
神奈川	横濱本町	神奈川ヲ經テ 八〇一七●三三◎三	山形	七日町	同 九四〇三四●五二◎
兵庫	神戶市場町	京都ヲ經テ 一五三〇一七●二四◎	秋田	久保田大町	同 一五〇〇一〇●五◎
長崎	外浦町	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三四五〇三三◎二一◎五	福井	照手上町	名古屋及ヒ番場ヲ經テ 一四〇〇三四●〇三◎二
新潟	本町	三國通リ 八九〇一六〇〇四●五	石川	金澤尾張町	高田ヲ經テ 一二七〇二二〇●一二◎三 名古屋及ヒ福井ヲ經テ 一六三〇一四●二六◎三
		若松ヲ經テ 一〇〇〇一九●一七◎三			
		高田ヲ經テ 一〇八〇三〇〇五一◎三			

埼玉	浦和中町	中山道通リ 六〇三・二〇〇一	島根	松江竪町	京都及ヒ津山ヲ經テ 二二三〇三一・五五〇四
千葉	本町	市川ヲ經テ 一〇〇一四・五二〇四	岡山	橋本町	京都及ヒ姫路ヲ經テ 一八九二四・一五〇四
茨城	水口下市七軒町	土浦通リ 二九〇三二・一六〇二	廣島	細工町	同 二三三〇三五・四一〇一
群馬	前橋連雀町	熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八〇〇六・〇五〇	山口	大市町	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六九〇一六・四三〇一
橡木	倭町	小山ヲ經テ 二三〇一九・〇八〇四	和歌山	京橋	大坂ヲ經テ 一六一〇〇六・一四〇四
三重	津揭示場	四日市ヲ經テ 一一二〇一一・五五〇三	德島	西横町	明石ヲ經テ淡路通リ 一八二〇三三・五三〇
愛知	名古屋鐵砲町	熱田ヲ經テ 九四〇〇六・一三〇四	愛媛	松山札ノ辻	下津井及ヒ丸龜ヲ經テ 二四八〇三三・一四〇二
靜岡	吳服町	東海道通リ 四六〇一〇・二五〇	高知	本町揭示場	同 二三九〇二七・五二〇四
山梨	甲府錦町	甲州街道通リ 三五〇一九・三四五	福岡	橋口町	小倉及ヒ山家ヲ經テ 三一一〇二九・一五〇三
滋賀	大津上京町	東海道通リ 一二七〇三四・五五〇四	大分	碩田橋	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三二〇〇二六・一〇〇一
岐阜	白木町	名古屋ヲ經テ 一〇三〇二六・三八〇三	熊本	新町	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三二〇二八・一〇〇
長野	大門町	中山道追分ヲ經テ 五八〇三三・五九〇二	鹿兒島	山下町	小倉及ヒ熊本ヲ經テ 三八八〇二六・〇二〇二
宮城	仙臺大町	陸羽街道福島ヲ經テ 九二〇二九・三九〇			

明治十四年五月改正

●電信條例

第一章　電報

第一條　凡電報別テ三種ト爲ス

一　官報　二　局報　三　私報

第二條　官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一　通常電報　二　至緑電報　三　追尾電報　四　同文電報　五　照校電報

六　受信電報　七返信料前納電報

第三條　電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモノトス

第四條　遞信大臣ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條　政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章　電報書法

第六條　凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞剌比亞數字ヲ用フヘシ

第七條　郵便電信局長電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解譯又ハ其合符原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章　電報料

第八條　凡電報料ハ國内ヲ通シテ同一トナス但一市内及壹岐對馬ニ發着スルモノハ此限

…ニアラス

第九條　電報料及手數料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　電報料及手數料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ

…但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條　電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設アラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ…發出スル時ハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セ…ザルモノトス

第十二條　電報料及手數料ニ用ヒタル電信切手ハ郵便電信局電信局ニ於テ消印スヘシ

第十三條　電報料及手數料ハ過納アルモ已ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス…未タ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ已ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條　第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金ヲ還付セス

第十五條　電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遲延シ若クハ到達セサルモノハ其料金ヲ還付ス…照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其ノ辨ヲ闕キタルコト判然タルモノ亦同シ

第十六條　料金還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以內ニ遞信省ニ申出ヘシ此期限ヲ過…クルトキハ一切之ヲ受理セス

第十七條　電報料及手數料ニ不足アルトキハ郵便電信局電信局ニ於テ其電報ヲ傳送スル…モ其不足ノ料金二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條　發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金ヲ七日以內ニ徵收シ難キトキハ發信人ノ…納メサルモノハ受信人ヨリ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收スヘシ

第四章　電信切手

本章十九條ヨリ第二十六條ハ電信切手使用禁止ノ爲メ消滅

第五章　電報發送

第二十七條　電報ノ傳送ハ郵便電信局電信局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條　郵便電信局郵便局ノ廢置並開局時間ハ遞信大臣之ヲ告示スヘシ

第二十九條　電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三十條　發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手數料ヲ納ムヘシ

第三十一條　官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス

第三十二條　官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三十三條　郵便電信局電信局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端木ニ署名捺印スヘシ

第三十四條　電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三十五條　電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條　宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ著信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十七條　郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ手數料ヲ要セス

但別使配達島嶼配達艀船配達ハ此限ニアラス

第三十八條　郵便電信局電信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第三十九條　郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ

別紙又ハ艀船ヲ以テ配達スル電報ハ手數料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ

第四十條　受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ著信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ著信ノ日ヨリ六十日以內ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四十一條　未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四十二條　電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ遞信省ハ一切其責ニ任セス

第六章　尋問改正

第四十三條　受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以內ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

郵便電信局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收入シ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四十四條　發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以內ニ之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

第七章　閱覽正寫

第四十五條　發信人又ハ受信人ハ電報竢著ノ日ヨリ三十日以內ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發著局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ證印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以內ニ之ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手數料ヲ納ムヘシ

第八章　電機私設

第四十六條　凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ遞信大臣ニ願出ヘシ

第四十七條　私設ノ電線ハ官設ノ電線ノラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スルモノニ限リ許可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ

第四十八條　電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ遞信省ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ

第四十九條　私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條　私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章　海外電報

第五十一條　海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章　罰則

第五十二條　第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第四十六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒收ス

第五十六條　第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ電線私設ヲ禁止ス

第五十七條　第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條　電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條　疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其

効力ヲ妨害シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　電信ノ柱木條線ニ紙爲ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條　政府ノ指定シタル水底電信線路內ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離內ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條　僞計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條　己レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條　電信切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條　已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條　電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條　遞信大臣ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條　電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披說明スルハ此限ニアラス

官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條　電信事務ヲ奉スル者賴信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條　電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條　疎漏懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十二條　配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條　第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ

ヲ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯非ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十四條　第六十四條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

㊫電信取扱規則

第一章　電報

第一條　官報トハ各官廳ノ公信竝締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及領事ノ通信ヲ云フ
但商人ニシテ領事ヲ兼ヌル者ヨリ發出スル電信ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スルモノニ非サレハ官報ト爲サス

第二條　局報トハ電信事務ニ關シ遞信省遞信管理局及郵便電信局電信局相互ニ送受スル通信ヲ云フ

第三條　私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ

第四條　發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得

第五條　至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章　電報書法

第六條　電報ニ用フル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第七條　莫爾斯字號左ノ如シ

（莫爾斯字號略之）

第八條　普通辭トハ和文ハ片假名歐文ハ羅甸語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ但電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通辭ト看做スヘシ

第九條　秘辭トハ普通辭ニ非サル文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

第十條　隱語トハ毎語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全體ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ

第十一條　（刪除）

第十二條　同上

第十三條　電報ニハ文字數字等混用スルコヲ得但歐文ノ秘辭ニハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スヘカラス

第十四條　小括弧ハ第十五條ノ場合ヲ除クノ外之レヲ用ウルヲ得ス

第十五條　和文ニハ商標又ハ記號等片假名ヲ以テ顯明シ難キ者ニ限リ歐字又ハ亞剌比亞數字及之レニ附屬スル句讀點記號ヲ差入スルコヲ得但小括弧ヲ以テ之レヲ區別スヘシ

第十六條　受信人ノ住所氏名ハ著信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ國名及郡區名ヲ記スヘシ但詳明ヲ要スルモノ贅語ヲ用フヘカラス

第十七條　宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ

第十八條　受信人ノ住所氏名ハ豫メ郵便電信局又ハ電信局ト約定シテ略號ヲ常用スルコトヲ得

但歐文電報ニ略號ヲ常用スルトキハ略號常用料ヲ納ムヘシ其金額及納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條　第七條ニ記載シタル畧符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ畧符號ニ改書スルモノトス

第二十條　發信人ノ賴信紙中ニ記シタル畧符號判然タラサルモノハ都テ通常電報ト爲シテ取扱フヘシ

第三章　字數計算

第二十一條　和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條　和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字及ヒ和文中ニ用ヒタル括弧小括弧ハ之レヲ片假名二字ニ計算スヘシ

第二十三條　和文中ニ用ヒタル長音數字歸除線句讀點新章及ヒ第十五條ニ記載シタル歐字又ハ亞剌比亞數字及ヒ之レニ附屬スル句讀點記号ハ其一字又ハ一個ヲ片假名ニ計算スヘシ但歐字亞剌比亞數字ニ附屬スル括弧及轉倒句讀ハ之レヲ片假名二字ニ計算スルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十四條　（刪除）

第二十五條　歐文ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ヘタル文字中ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十六條　歐文中文字又ハ數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十七條　歐文中聯記シタル數字五個ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五個ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十八條　歐文中順序數ヲ作ル爲メ數字ニ加ヘタル文字ハ之ヲ數字一個ニ計算スヘシ

例

17th	一語　數字文字合セテ四個
1778th	二語同　六個

第二十九條　文數字中ニ用ヒタル分數點讀點及歸除線ハ一個ヲ一字ニ計算スヘシ

例

44,55	一語　數字分數點合セテ五個
44,560	一語　數字讀點合セテ六個
$510\frac{1}{2}$	二語　數字歸除線合セテ四個

第三十條　歐文中ニ記入シタル句讀諸點連續點畧符新章ハ之ヲ語數ニ計算セス但此記號ハ必シモ傳送スルヲ要セス

第三十一條　歐文中連續點ヲ以テ繋キタル辭及畧符ヲ以テ分チタル辭ハ其分辭毎ニ一語ニ計算スヘシ

例

WeStOne-super-mare	三語
New-yok	二語
I·ev	二語

第三十二條　歐文中字下線ヲ毎語ニ引キ又ハ二語以上ニ繋ケテ引クトキハ一個ヲ一語ニ計算スヘシ

例

The matter is urgent,
leave at once　七語幷字下線二個合セテ九語

第三十三條　歐文中ニ用ヒタル括弧轉倒句讀ハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第三十四條　歐文普通辭中秘辭ノ雜リタルモノハ其普通辭ハ通常ノ例ヲ以テ之ヲ計算シ數字又ハ文字ノ聯集シタルモノハ數字ノ例ニ依テ之ヲ計算シ第八條ニ記シタル國語ニ非サル語辭ハ文字ノ聯集ト看做シテ之ヲ計算スヘシ

第三十五條　歐文中國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省畧シタルモノハ普通辭ノ例ヲ以テ計算スルコトヲ得ス然レトモ府縣名地名其他官位氏名等及文字ニテ記載シタル數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明ニスル爲メ用ヒタル語數ニ因テ計算スヘシ

第三十六條　第七條ニ記載シタル畧符號ハ和文ハ二字歐文ハ一語ニ計算スヘシ

第四章　電報料及手數料

第三十七條　國內（一市內ヲ除ク）ヲ通スル電報料左ノ如シ

一和文　片假名十字以內一音信金拾五錢
　十字以內ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ增ス

一歐文　五語以內住所氏名共金貳拾五錢
　一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ增

第三十八條　一市內ニ發着スル電報料左ノ如シ

一和文　片假名十字以內一音信金五錢
　十字以內ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ增ス

一歐文　五語以內住所氏名共金拾錢
　一語ヲ加フル毎ニ金貳錢ヲ增ス

第三十九條　至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條　至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條　追尾電報料ハ追尾一回毎ニ原信電報料ノ半額ヲ增ス

第四十二條　同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ金五錢歐文ハ金拾五錢トス

第四十三條　照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ增ス

第四十四條　受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ增ス

第四十五條　電報料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其端數ハ切捨ルモノトス

第四十六條

第四十七條　條例第三十條ノ電報受取證書ノ手數料ハ金三錢トス

第四十八條　條例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁毎ニ金三錢トス

第四十九條　條例第三十九條ノ船舶配達料ハ一貳拾錢トス

第五十條　條例第四十五條ノ原信正寫ノ手數料ハ和文百字以內毎ニ金貳錢歐文百語以內毎ニ金壹錢トス

第五十一條　料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ着信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤謬遲延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添ヘ發信人ヨリ還信省ニ申立ヘシ但時宜ニヨリ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條　電報遲延ノ申立ハ郵便ニテ還送スル時日ヨリモ後レテ屆先ニ達シタルモノニ限ルヘシ

第五十三條　電報料手數料ヲ還付スルトキハ都テ郵便切手ヲ以テスヘシ

第五十四條　同文電報ノ內若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料金ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條　追徵電報料及手數料ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シタル追徵證書ヲ發スルニ依リ發信人又ハ受信人ニ於テ其金額ヲ追納スヘシ

但鐵道所屬電信取扱所ニ於テ追徵スルトキハ追徵證書ニ郵便切手ヲ貼付セス

第五章　電報發送

第五十六條　發信人ハ電報一通ニ三名マテ連署スルコトヲ得

第五十七條　受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ郵便電信局電信局ニ預ケ置カントスルトキハ其局宛トナスモ妨ケナシ

第五十八條　電報ノ受取證書ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第五十九條　電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信分局ヘ宛テ之ヲ差出スヘシ

第六十條　郵便ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信局ヘ宛テ發出シクル電報ニテ閉局後ニ受取リクルモノハ翌日開局ノ時傳送ノ手續ナスモノトス

第六十一條　郵便ニテ發出シクル電報ニテ閉局後ニ受取リクルモノハ翌日開局ノ時傳送ノ手續ナスモノトス

第六十二條　發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ記符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條　發信人電報ノ受信家ヘ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ記符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ記符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサルトキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ著信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剰アラハ發信人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徴收スヘシ

第六十六條　郵便ヲ以テ遞送スヘキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ但別配達郵便ハ之ヲ取扱ハス

第六十七條　艦船宛ノ電報ニシテ舟船ヲ以テ配達スヘキモノハ舟船配達ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十八條　艦船宛ノ電報ニシテ別使ヲ以テ配達スヘキモノハ舟船配達並別使配達ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十九條　艦船宛ノ電報ニシテ舟船配達ノ指定ナク實際舟船ヲ要スルトキハ其舟賃ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第七十條　島嶼配達ノ電報ハ著信局ヨリ一里內外ニ拘ハラス別使又ハ郵便ヲ用フヘキニ依リ何レカ其署符號ヲ以テ指定スヘシ但其記ヘナキモノハ先拂郵便ヲ以ヲ遞送スヘシ

第七十一條　島嶼ノ別使配達料ハ水陸トモ實費ヲ徴收スヘキニ依リ發信人ヨリ豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ

第七十二條　電報ハ著信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ

第七十三條　電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ

第七十四條　受信人ニ配達スル送達紙ニハ無手數料ニテ其發信局名及依託ノ月日時分ヲ記スルモノトス

第七十五條　送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所ヘ移轉シ其居所分明ナルモノ壹里ヲ超ヘサルトキハ別ニ手數料ヲ要セスシテ配達スヘシ壹里ヲ超ユルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第七十六條　條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ヘキ人名ヲ指定スルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ

第七十七條　郵便電信局電信局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其發信人及受信人ノ住所氏名ヲ詳記シテ七日ヨリ少ナカラサル間其局前ニ掲示スヘシ

第六章　至急電報

第七十八條　官報私報ヲ問ハス通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スルモノハ至急電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第七十九條　至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至急電報ノ署符號ノ次ニ「ヘンシンシキウ」ト記スヘシ

第七章　追尾電報

第八十條　發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスルトキハ追尾電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第八十一條　追尾電報ノ第一著局以外ノ料金ハ受信人ヨリ徴收スヘシ但一市內ニテ追送

スルモノハ料金ヲ要セス

第八十二條　追尾電報ノ頼信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ

第八十三條　追尾電報ノ署符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記セサルモノニシテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ追送スヘシ若シ追途スヘキ居所不分明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信人ヲ尋得サルトキハ電報ヲ留置クヘシ

第八十四條　追尾電報ノ署符號アリテ且追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記シタルモノハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得サルトキハ其終尾ノ局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省署セス逐局之ヲ傳送ス然トモ逐書シタル居所ハ其當サニ送ルヘキモノノミヲ存シ已ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ

第八十五條　追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲ストキハ更ニ改追尾電報ノ署符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐局傳送スルコトヲ得

第八十六條　追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ署符號ノ次ニ返信料前納ノ略符號ヲ記シ第一著局マテノ返信料ヲ前納スヘシ

第八十七條　返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納ノ次ニ改追尾電報ノ署符號ヲ記スヘシ其著信局ニ於テハ第一著局マテノ返信料ヲ受信人ニ交付スヘシ

第八十八條　何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ電信分局ヘ移轉等ノ事由ヲ書面ニテ申出置キ其電報ノ到著次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ント請求スルコトヲ得此電報ハ著信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ署符號ヲ以テ指定シ移轉ノ居所所在ノ著信局ヘ追送スヘシ

第八十九條　追尾電報ヲ著信局ヨリ一里ヲ超エタル地ニ遞送スルトキハ前拂郵便ヲ用ヒ其郵便稅額ハ追徵證書ニ合記シ之ヲ追徵スヘシ

第九十條　受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分ヲ記スルモノトス

第九十一條　追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルトキ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依托人ニ事實ヲ報シテ其料金ヲ追徵スヘシ

第八章　同文電報

第九十二條　發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市內又ハ一市內ニ非サルモ著信局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名ヘ差出サントスルトキハ同文電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第九十三條　同文電報ノ頼信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ署符號ト受信人ノ員數ヲ記スヘシ

第九十四條　同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電報料ヲ課スルモノトス

第九十五條　照校電報ト爲ストキハ同文電報ノ署符號ノ次ニ照校電報ノ署符號ヲ記スヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報料ノミヲ課スルモノトス

第九十六條　受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ署符號ノ次ニ受信電報ノ署符號ヲ記シ同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ

第九十七條　同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコトヲ請求セサルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者ハ同文電報ノ署符號ノ次ニ「レンメイ」ト記スヘシ

第九十八條　住居ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス

第九十九條　同文電報ヲ送達スルニ或ハ郵便ヲ以テシ或ハ別使ヲ以テスル等各配達ノ方法ヲ異ニスルモノハ受信人ノ名下ニ一々郵便配達若クハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九章　照校電報

第百條　發信人ニ於テ電報中字句ノ誤謬ヲ豫防セントスルトキハ照校電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第百一條　照校電報ハ各局傳送ノ際全文ヲ校正スルモノトス

第百二條　返信料ヲ前納シタル照校電報ニテ其返信モ亦照校電報ト爲ストキハ照校電報ノ署符號ノ次ニ「ヘンシンセウカウ」ト記スヘシ

第十章　受信電報

第百三條　發信人電報ノ正ニ受信人ニ到達セシヤ否ヤノ報知ヲ受ケントスルトキハ受信電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第百四條　受信報知ヲ要スル電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル時刻ヲ報知スヘシ

第百五條　受信電報ハ其原信ノ種類ニ依テ之ヲ傳送スヘシ

第百六條　受信報知ヲ要スル電報ヲ受信人ニ配達スル能ハサルトキハ著信局ニ於テ先ツ發信局ニ其旨ノ局報ヲ送ルヘシ然ル後電報ヲ配達スルコトヲ得タルトキハ直ニ受信電報ヲ送ルヘシ若シ局報ヲ送リタル後二十四時ヲ過クルモ尚配達スル能ハサルトキハ更ニ其事由ヲ確報スヘシ

第百七條　受信報知ヲ要スル電報ニシテ其著信局ヨリ受信人ヘ別使又ハ郵便ヲ以テ配達ス可キ者ハ受信電報ノ署符號ノ次ニ別使配達若クハ書留郵便配達ノ署符號ヲ記ス可シ其郵便ヲ以テ配達ス可キモノハ郵便局ヘ付托セシ時刻ヲ答報ス

第百八條　發信人配達區外ニ居住スルニ依リ別使又ハ郵便ヲ以テ受信電報ノ配達ヲ得ンコトスルトキハ願信紙ノ端末ニ「別使」又ハ「郵便」ト記シ其別使料又ハ郵便稅ヲ前納スヘキ電報料ヲ前納シテ返信ヲ受ケントスルトキ

ハ返信料前納電報ノ署符號ヲ以テ指定スヘシ

第百十條　一音信又ハ五語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ返信料前納ノ署符號ノ次ニ其字數又ハ語數ヲ記スヘシ

例

和文　（カニ二〇）

歐文　(RP 6)又ハ(RP(10)

第百十一條　郵便ニテ返信料前納電報ノ送達ヲ要スルトキハ尚書留郵便ノ署符號ヲ以テ指定ス可シ

第百十二條　返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲メ著信局ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一返信料前納ノ金額及之ニ對スル字數歐文ハ語數

一受信人名

一發信局名發信年月日及發信番號

一本書發行ノ年月日

第百十三條　返信料前納電報ノ返信ハ何レノ郵便電信局電信局ヨリ發送スルヲ問ハス返信料前納ヲ證明シタル返信用紙ニ記載シテ差出スヘシ

其返信電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其超過額ニ相當スル郵便切手ヲ貼付スヘシ

第百十四條　返信料前納證書使用ノ期限ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス此期限ヲ過クルトキハ使用ノ効能ヲ失フ

第百十五條　返信電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ前納シタル日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ返信電報ヲ添ヘ其殘額ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

返信料前納證書不用ニ屬スルトキハ證書發行ノ日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ其證書ヲ添ヘ返信料ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

第百十六條　受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其事由ヲ發信人ニ報知スル爲メ著信局ヨリ電報ヲ以テ其旨發信局ニ報知シ此報知電報ハ返信ノ代ト見做ス可シ但和文一音信分歐文五語分ヲ超過シテ返信料ヲ前納シタルモノハ發信人ヨリ其超過額ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得其請求期限ハ第百十五條ニ同シ

居所不明其他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付スルコト能ハサルトキハ七日前著信局前ニ其旨ヲ掲示シ此期限内ニ尚交付スルコト能ハサルトキハ前項ノ例ニ依テ處分スヘシ

第十二章　尋問改正

第百十七條　條例第四十三條第四十四條ニ依リ既送現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依賴ニ依リ傳送スル電報ハ其種類ニ依リ取扱フモ之ヲ往復スルニハ局名ヲ以テスル

第十三章　原信正寫

第百十八條　原信ノ正寫ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付ス可シ

●電信規則附屬法

電信條例中心得方

電信條例第十一條第十二條第十七條第二十二條第二十七條第三十三條第三十七條第三十八條及第四十三條中電信中央局及分局トアルハ電信分局同第二十一條電信局長ハ遞信管理局長第二十五條及第二十六條　電信中央局及工部卿ハ一等電信分局及遞信大臣同第二十八條及第四十六條中工部卿ハ遞信大臣電信取扱規則第二條第五十六條第五十八條及第七十七條中「中央局幷分局」「電信中央局又ハ分局」「電信中央局及分局」ハ電信分局ト心得可シ（局名改稱心得ハ電信條例ニ就キ直ニ之ヲ訂正ス）

◉電信條例中電信局長等改稱心得

電信條例第四條第六十七條ノ電信局長ハ遞信大臣第七條ノ電信局長ハ郵便電信局長電信局長第廿五條ノ一等電信分局ハ遞信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ遞信管理局第二十六條ノ一等電信分局及遞信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ遞信管理局又ハ一等郵便電信局一等電信局第十六條ノ電信局長第四十二條第四十五條第四十八條ノ電信局ハ遞信省電信取扱規則第二條ノ電信局ハ遞信省遞信管理局第五十一條ノ電信局長ハ遞信省第十八條ノ電信局ハ郵便電信局又ハ電信局其他電信條例電信取扱規則中ノ電信分局ハ郵便電信局電信局ト心得ヘシ（同上）

◉電信局渡規則

電報局渡規則左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス

◉電報局渡規則

第一條　凡ソ電報ノ受信人ニシテ其電報ノ配達ヲ待タス郵便電信局又ハ電信局ニ就キ直ニ之ヲ受領セント欲スル者ハ豫メ書面ヲ以テ其配達ヲ受クヘキ局ニ其旨申出ツヘシ

第二條　電報ノ受信者郵便電信局又ハ電信局ニ於テ電報ス受領スルトキハ其時々電報局渡證票ヲ當該局員ニ示スヘシ其電報受領ノ爲メ出頭シタルトキ及立去ルトキハ其旨ヲ當該局員ニ陳告スヘシ

第三條　郵便電信局又ハ郵便局ニ於テハ電報局渡證票携帶者ヲ正當受信人ト見做シテ其電報ヲ交付ス可シ

第四條　電信局渡證票ヲ交付セル者ニ宛テタル電報著スルモ其證票携帶者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ交付ス可シ

第五條　電報局渡證票ヲ所持スル者住所氏名ヲ變換シタルトキハ其旨書面ヲ以テ當該局ニ申出ツヘシ

第六條　電報局渡證票不用ニ屬スルトキハ之レヲ當該局ニ還納ス可シ

第七條　電報局渡證票ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨ヲ當該局ニ報告ス可シ此證票ハ當該局ニ其報告ヲ受タル時ヨリ無効トス但此場合ニ於テハ當該局ヨリ更ニ證票ヲ交付ス可シ

第八條　電報局渡證票ヲ受領シタルモノハ電報局渡料トシテ一箇年六圓及一名ノ受信人ニシテ二箇以上ノ局渡證票ヲ受領シタルモノハ一箇ヲ益ス毎ニ一箇年三圓ヲ納ムヘシ其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲ク四期ノ別ニ依リ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納ス可シ但二期以上ノ分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ

第一期　一月ヨリ三月マテ
第二期　四月ヨリ六月マテ
第三期　七月ヨリ九月マテ
第四期　十月ヨリ十二月迄

第九條　一期ノ中途ニ於テ電報局渡證票ヲ交付シタルトキ其期ノ料金ハ年額ヲ十二分シ證票交付ノ月ヨリ其期ノ末月マテノ月數ニ應シテ之ヲ即納ス可シ

第十條　電報局渡料金ハ郵便切手ヲ以テ之レヲ納付スヘシ

第十一條　電報局渡料金ハ一等郵便電報局又ハ二等郵便電信局ニ於テハ通貨ヲ以テ之ヲ當該局ニ納付シ二等電信局又ハ三等郵便電信局ニ於テハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付ス可シ

第十二條　電報局渡證票ヲ受領シタル者料金ヲ納付期限ニ完納セサルトキハ其證票ハ無効トス

◉電報差出方ヲ配達人ニ依托スルノ規程

料金ノ既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ證票ヲ還納スルト雖モ之レヲ還付セス但證票ヲ還納シタル次期以下ニ屬スル局渡料前納アルトキハ其次期以下ノ分ハ郵便切手ヲ以テ還付ス

電氣通信ノ利便ヲ增進センカ爲メ電報配達人ニ電報差出方ヲ依托スル規定左ノ通之ヲ定ム

一　郵便電信局電信局ニ於テ左ノ電報ヲ配達スルトキ之ヲ受取リタル者ハ其電報配達人ニ依托シテ電報ヲ差出スコトヲ得但萬國電信條約書ニ據リ發送スヘキ電報、返信料ヲ前納スヘキ電報、豫算ヲ以テ料金ヲ納付スヘキ電報及受領證ヲ要スル電報ハ此限ニアラス

一　返信料前納ノ電報
一　局待指定ノ電報
一　郵便電信局電信局ヨリ一里以外ニ配達スル電報
一　島嶼配達ノ電報
一　解船配達ノ電報

二　前項ニ據リ電報ヲ依托スル者ハ達配ヲ受ケタル電報ノ受取紙ニ「電報依托ノ文字及其料金額ヲ記載シ之ヲ配達人ニ交付ス可シ

其電報ニシテ秘密ヲ要スルモノハ切手貼付ノ部分ヲ配達人ニ示シ後之ヲ封印スヘ

シ

三　電報ヲ依托スル者電報ノ交付ヲ遅延シ五分時間ヲ超過スルトキハ電報配達人ハ其依托ヲ待タスシテ立去ルコトアル可シ

四　電報配達人ヲ依托シタル電報ハ其配達人當該郵便電信局又ハ電信局ニ持歸リタル時ヲ以テ受付時刻トナス但閉局後ニ持歸リタルトキハ閉局後受付ヲナスヘキ電報ヲ除クノ外翌日開局ノ時ヲ以テ受付時刻トナスヘシ

◎電信料及ヒ手數料ハ郵便手ヲ以テ納メシム

脫電信料及手數料納付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電信料及手數料ハ明治二十一年四月一日ヨリ郵便切手ヲ以テ納ムルモノトス

但當分ノ内電信切手ヲ以テ納ムルコトヲ得

◎電信爲替料改正

電信爲替ノ爲替料左ノ通リ改正シ來ル四月一日ヨリ徵收ス

但本文施行ノ日ヨリ別ニ電報料ヲ納ムルニ及ハス

爲替金高	爲替料	爲替金高	爲替料
五圓迄	貳拾八錢	貳拾圓迄	三拾五錢
拾圓迄	三拾錢	三拾圓迄	四拾錢

◎歐文電報著號常用料金額及其納付手續

歐文電報著號常用料金額及其納付手續左ノ通相定メ本年三月二十八日ヨリ施行ス

但明治二十年六月省令第三號ハ本件施行ノ日ヨリ廢止ス

歐文電報著號常用料金額及其納付手續

一　翌號常用料ハ一箇年金拾圓トス其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ揭クル四期ノ別ニ從ヒ一期毎ニ之ヲ前納スヘシ

但二期以上ノ分ヲ一時ニ前納セルモ妨ケナシ

第一期　一月ヨリ三月マテ

第二期　四月ヨリ六月マテ

第三期　七月ヨリ九月マテ

二　署號常用料ハ署號常用ヲ約定スル郵便電信局又ハ電信局ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ
　但二等電信局及三等郵便電信局電信局ニハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ
三　一人ニシテ二種以上ノ署號ヲ常用スルトキハ一種毎ニ略號常用料ヲ納付スヘシ
四　同一ノ署號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用フルトモ各別ニ署號常用料ヲ納ムルニ及ハス
五　第一項ニ掲クル一期ノ中途ヨリ署號常用ヲ約定スルトキハ年額金ノ月割ヲ以テ約定ノ月ヨリ其期末月マテノ月數ニ應シテ署號常用料ヲ前納スヘシ
六　常用スル署號無用ニ屬シ取消ヲ請求スルトモ前納シタル署號常用料ヲ還付セス
　但取消ヲ請求シタル次期以下ニ屬スル署號常用料前納アルトキハ其次期以下ノ分ヲ還付スヘシ
七　署號常用料ヲ還付スルトキハ前ニ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付シ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ郵便切手ニテ還付スヘシ

◎朝鮮國ニ發着電報料並海外電報ノ國内傳送料

朝鮮國ニ發着スル電報ノ料金並海外電報ノ國内傳送料金別紙ノ通相定ム
（別紙）
一本邦ヨリ朝鮮國ニ發着スル釜山迄ノ電報一音信料四拾錢トス但對馬釜山間ハ三十錢トス
二本邦ヨリ朝鮮國釜山ニ發着スル電報ハ和文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信トス
　片假名七字ニ滿タサルモノ亦同シ
三本邦ヨリ朝鮮國釜山ニ發着スル電報ハ和文ハ受信人ノ住所氏名共ニ字數ニ算入ス
　文ハ發信人受信人住所氏名共ニ字數ニ算入セス歐
四前三項ノ外日本朝鮮兩國間ノ電報ハ總テ電信萬國條約書ニ依テ取扱フモノトス
五海外電報ニ日本語ヲ用フルトキハ羅馬字ヲ以テ書載スヘシ
六海外電報ノ國内傳送料金ハ何地ヨリ發スルヲ問ハス一語毎ニ左ノ如シ長崎以外ノ送料金ハ海外各國ニ於テ定ムル所ニ依ル

歐羅巴及埃及以西		正貨拾七錢
亞細亞（亞細亞露西亞及土耳其ヲ除ク）其他地方		正貨貳拾錢
香港廈門福州上海吳松コンラフト長崎ト直發着		正貨　拾錢

七朝鮮國釜山浦ヨリ海外ヘ發スル電報長崎迄一語ノ料金左ノ如シ
　但丁抹國電信會社ノ海底線通行料金ヲモ含有ス

歐羅巴及埃及以西		釜山長崎間正貨九拾七錢
亞細亞（亞細亞露西亞及土耳其ヲ除ク）其他地方		釜山長崎間正貨六　拾　錢

海外電信料表ニ依リ收ムヘシ

◎朝鮮國京城ヨリ釜山ヲ經歐羅巴及其以西各國ヘ發着スル電報ノ釜山長崎間經行料金

行料金

本年四月一日以ト朝鮮國京城ヨリ釜山ヲ經テ歐羅巴及其以西各國ヘ發着スル電報ノ釜山長崎間經行料金ハ一語ニ付正貨三拾貳錢ヲ課ス

◎長崎烏拉日阿斯德間海底電信線ヲ經由シテ本邦ト露西亞國西伯利亞間ニ發着スル電報料

長崎烏拉日阿斯德間海底電信線ヲ經由シテ本邦ト露西亞國西伯利亞間ニ發着スル電報ハ一語ニ付料金八拾六錢四厘ヲ徵收ス但錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ壹錢ニ切上クルモノトス

明治十八年五月第九號布達第六項電報料金表第三行中「及浦潮斯徳　ノ五字ヲ刪除ス

本令ハ明治二十四年七月一日ヨリ施行ス

◎萬國電信條約書ニ依リ發送スル電報ニ郵便切手ヲ用ユル件

萬國電信條約書ニ據リ二等電信局三等郵便電信局ニ依頼シテ遞送スル電報料ハ本年三月廿八日以降郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

（二十五年八月逓信省令第十二號ヲ以テ追加）

逓信省告示第三十七號

郵便電信發受ニ付テハ發信者受信者ノ注意ハ頗ル交通ノ敏活ヲ助クル所アルヘキヲ以テ成ルヘク左記心得書ノ趣旨ヲ守ルヘシ

追テ此心得ハ新聞雜誌其他公衆ノ用ニ供スル印刷物類ニ廣ク且屢〻轉載シ或ハ學校ニテ適宜取捨シテ學生生徒ニ敎示スル等成ルヘク公衆ノ周知ヲ謀リ以テ公益ヲ助ケンコトヲ期望ス

明治三十一年二月十七日

逓信大臣　文學博士男爵末松謙澄

○郵便電信發受心得

郵便ノ部

一　郵便物ノ肩書ハ國郡市町村番地ヲ記スヘシ府縣名ハ一國ニシテ數府縣ニ分屬スル地方ノ外記載スルニ及ハス

郵便局ニテハ概ネ國名ニ依リ差立方面ヲ定ムルニ付同一府縣內ト雖モ國ヲ異ニスルトキハ差立ノ方面亦異ナルモノアリ仍テ府縣名ハ必要ナシ尤モ一國ニシテ二三ノ府縣ニ跨ル地方例ヘハ武藏丹波肥前ノ如キニ於テハ府縣名ヲ記載スル方速達ノ便アレハ此等ノ場合ニハ成ルヘク府縣名ヲ記載スヘシ

三府五港其他市制施行地ノ如キハ國名ヲモ要セス例ヘハ東京大阪橫濱名古屋廣島ノ如キハ單ニ何々市ト冠スヘシ

二　郵便物ノ表書ハ國郡市町村等ノ肩書ヲ成ルヘク大キク鮮明ニ記スヘシ番地氏名ハ小

サヽ書シテ差支ナシ

郵便物ハ送達途中數タノ郵便局ヲ經由スルモノニシテ各局トモ眉書ニ依リ順次差立ノ方面ヲ定ムルヲ以テ眉書ノ不分明ナルモノハ取扱者ノ手數ヲ增シ一般ニ遲延ノ原因トナルヘシ字體ハ成ルヘク楷書又ハ丁寧ナル行書ヲ用フヘシ草書ノ如キハ錯誤ヲ生シ易シ

三　差出人受取人トモ雅號變名等ヲ用ヒヘカラス

配達又ハ還付ノ際差支アリ沒書トスルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ

四　郵便物ノ羅馬字ノ表書ニハ成ルヘク日本字ヲモ併書スヘシ

羅馬字表書ノ郵便物ヲ內國ニテ配達スルニハ郵便局ニテ日本字ニ翻譯シテ配達スルノ煩アリ隨テ內國ニテ配達スルモノハ成ルヘク宿所氏名ヲ日本字ニテ併書スルヲ可トス外國行ニテモ受信人ノ國名市名等ヲ日本字ニテ併書スレハ海外發送ノ當該郵便局ニ送付上便利少カラス

五　郵便物受取人居住地ノ所轄郵便局名ノ知レ居ル場合ニハ其表書ニ「何國何郵便區何町村」ト記スルヲ可トス

是亦取扱者ノ手數ヲ省キ郵便ノ誤送ヲ防クノ一法トス故ニ同一人ニ向ヒ日常多數ノ郵便物ヲ差出ス者ハ受取人ノ所轄郵便局名ヲ問合セ置キ之ヲ表記スルヲ可トス隨テ又日常多數ノ信書ヲ受取ル者ハ自己所轄ノ郵便局名ヲ發信者ニ知ラシメ置クコト猶現今種々ノ方便ニ因リ自己ノ電話番號ヲ他人ニ知ラシムルト均シキ方便ヲ採ルトキハ其便益少カラサルヘシ

六　郵便切手ハ封筒表面ノ左上隅ニ貼附スヘシ

取扱者ノ手數ヲ省キ郵便ノ遲延ヲ防クモノニシテ差出人自己ノ利益トナルヘシ概シテ取扱者ノ手數ヲ省クハ郵便ノ速達ヲ期スル所以ナルコトヲ記憶スヘシ

七　郵便物ノ表面ニハ郵便日附印ヲ押捺スルニ足ルヘキ餘白ヲ存スヘシ

郵便日附印ハ引受又ハ到著ノ日時ヲ證明スルモノトス餘白ハ成ルヘク表面左上隅ノ切手ノ下ニ存スルヲ可トス

八　急ヲ要スル郵便物ハ郵便函ニ投入セス郵便局ニ持參スヘシ

路傍ノ郵便函ニ投入スルトキハ之ヲ郵便局ニ取集ルマテニ若干ノ時間ヲ要スヘケレハナリ

九　鐵道停車場附近ニ住スルモノ其鐵道ニ依リ遞送スヘキ郵便物ヲ差出シ速達ヲ欲スルトキハ停車場ニ設ケタル郵便函ニ投入スルヲ可トス

鐵道停車場內ニ設ケタル郵便函ニ投入シタル郵便物ハ鐵道郵便列車出發際ノ之ヲ取集メ郵便局ニ持戻ラス直ニ其郵便列車中ニテ其送達先ヲ區分スルニ因リ普通ノ郵便函ニ投入スル者ヨリモ速達ノ效アルヘシ尤モ停車場郵便函ハ必要ニ應シ漸次上リ便又ハ下リ便ヲ區別シ分置スヘキ筈ニ付其區別アル所ハ必ラス其方向ノ指定アル郵便函ニ投入スヘシ若シ反對ノ方面ニ達スルモノヲ投入スルトキハ一旦不當ノ方位ニ持越シ更ニ送戻サヽルヘカラサルヲ以テ却テ延著ヲ生スヘシ

十　小包郵便物ハ其物品ノ性質形體ニ應シ適當ナル材料ヲ用ヒテ包裝スヘシ
包裝不完全ナルトキハ遞送途中ニ於テ汚損スルノ憂アルノミナラス他ノ郵便物ニ
損害ヲ及ホスコトアリ又弱質ノ紙例ヘハ新聞紙類ヲ用ヒテ包裝スルトキハ容易ニ
破損シ爲メニ宛名不分明ニ歸シ配達ヲ爲シ得サルモノアリ故ニ相當ノ包裝ヲ爲ス
是等ノ損害ヲ避クヘシ又海外又ハ臺灣各地ノ如キ遠距離ニ達スルモノハ鑵詰ノ如
キモノト雖モ猶上箱ニ納ムル等ノ手當ヲ要ス

十一　小包郵便物ニ信書ヲ包入スルノ嚴禁タルコトニ留意スルヲ要ス
小包郵便物中ニ信書ヲ包入シタルトキハ處罰アリ且該郵便物ハ名宛人ニ送達セス
シテ差出人ニ還付スルノ成規タルコトヲ忘ルヘカラス

十二　成ルヘク郵便受取函ヲ設ケ置クヘシ
早朝若クハ夜間ニ郵便ノ配達ヲ受ケントスル者ハ豫メ其旨ヲ郵便受取函ニ通知シ
入ニ於テモ頗ハシカルヘク配達モ亦爲ニ時間ヲ徒費シ他ノ郵便物ノ配達ヲ遲延ス
ルニ至ルヘシ故ニ每戶必ラス受取函ヲ裝置スルヲ要ス

電信ノ部

十三　受信人ノ住所ハ簡明ニシテ配達ニ差支ナキヲ期シ成ルヘク不必要ノ文字ヲ省クヘ
シ
字數ノ多キモノハ送信ニ費ス時間モ亦多ク延テ電報ノ遲著トナル故ニ用事ニ非ラ
サル部分ノ字ハ成數ルヘク省略スルヲ便トス隨テ有名ナル土地ニシテ錯誤ノ虞ナ
キモノハ國名郡名ナト省クモ差支ナシ例ヘハ三府五港ヲ始メトシ宇都宮仙臺小倉
鳥取ノ如シ又東京市ノ「市」横濱港ノ「港」ノ如キ類ハ全ク不必要トス

十四　發信人ノ住所ハ成ルヘク省略スヘシ又氏名モ成ルヘク簡單ニスヘシ或ハ全ク記載
セサルモ差支ナシ
日常電報又ハ郵便ノ往復頻繁ナルモノ相互ノ間ニアリテハ其都度住所ヲ知ラシム
ルノ必要ナカルヘシ又氏名ニ代フルニ屋號ヲ以テスルモ可ナラン或ハ受信者ニシ
テ發信者ノ誰タルコトヲ認メ得ヘシト信スル場合ハ全ク發信者ノ氏名ヲ略スルモ
亦可ナラン就中會社名ノ如キニ至テハ株式、合資、合名等ノ字句ヲ省略スルモ差支
ナカルヘシ電報ノ速達ヲ望ムモノハ發信人自ラモ亦是等ノ注意ヲ怠ルヘカラス
右ハ傳送文字ヲ省略スルニ必要ナル注意ナリト雖モ發信人ニ報告問合セ等ヲ爲ス
場合住所氏名不分明ナルトキハ差支アルニ因リ別ニ欄外又ハ餘白ニ之ヲ記載スヘ
シ此分ハ傳送セサルモノ故本字ニテ記載スヘシ

十五　電報名宛ニハ著名ナル人名若クハ官名ハ成ルヘク簡易ニシ錯誤ノ虞ナキ限リハ省
略スヘシ發信者モ亦同シ
例ヘハ遞信大臣何爵何誰ト書セス單ニ遞信大臣トスルノ類トス

十六　電報宛名ニハ敬稱ヲ附記スルコトアルモ右ハ受信人發信人ノ間
電報宛名ニ往々殿又ハ閣下等ノ敬稱ヲ省略スヘシ
ニ於テ互ニ宥恕スルモノト見做シ一切附記セサルヲ可トス

十七　和文電報ハ發信人受信人ノ住所氏名ヲ本字ニテ記載スルトキハ片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ

住所氏名ヲ本字ニテ記載スル者往々アリ然ルニ電報ハ假名符號ニテ傳送スルモノナレハ本字ニテ取扱方不便ナリ殊ニ普通ノ讀方ニ違フモノ又ハ讀ミ難ルモノアレハ爲メニ意外ノ誤リヲ生シ甚タシキハ不達ニ歸スルコトナシトセス

十八　電報文中數字ノ如キハ成ルヘク再記スル方安全ナリ

電報文ハ力メテ無用ノ文字ヲ省キ簡略ニ記載スル習ナレハ一字ノ誤リモ之レカ爲メ大ナル損害ヲ釀スコトアリ數字ニ於テ特ニ然リトス然ルニ是等ハ傳送上誤リアルモ取扱者ハ其誤リヲ發見スルノ方便ニ乏シケレハ臨テ其ノ誤リヲ傳播シ易シ故ニ之ヲ再記スレハ誤リヲ防キ又ハ防キ得サルモ受信人ニ於テ誤リナルコトヲ發見シ易シ例ヘハ「一五（ヲウゴ）」ト再記スルカ如シ

十九　返信料前納電報ヲ受取リタルモノハ餘事ハ差繰リ直ニ返電ヲ配達スヘキモノナレハ之ヲ受ケタルトキハ速ニ其配達證ニ捺印シテ集配人ニ返付スヘシ

返信料前納電報ノ配達ヲ受ケ長時間配達人ヲ待タシムル者アリ是亦自然電報運滯ノ原因ヲナス故ニ受信人ハ即時ニ返電ヲ交付スヘシ若シ即時ニ交付シ難キニ於テハ配達人ヲ直ニ還シ返電ハ自己ヨリ別ニ電信局ニ差出スヘシ

郵便電信共通ノ部

二十　書留郵便物若クハ小包郵便物又ハ電報ノ配達ヲ受ケタルトキハ速ニ其配達證ニ捺印シテ集配人ニ返付スヘシ

郵便電信配達人ハ迅速ニ其郵便又ハ電信ヲ配達スヘキモノナレハ之ヲシテ徒ラニ時間ヲ遷延セシムルトキハ他ノ郵便又ハ電信ノ配達ニ差支ヲ生スヘシ

二十一　受信人ノ中ニハ其配達ヲ受ケタル郵便又ハ電信ヲ披見シタル後始メテ配達證ヲ返付スルモノアリ是等ハ時間遷延ノ一大原因タルニ依リ此ノ如キ所爲ナカラシムコトヲ要ス

集配人ニ向ヒ途中ニテ地理ノ質問ヲ爲ス類ノ事ヲ愼ムヘシ

二十一　集配人ハ町名番地等ヲ知ルコト常人ニ超ユルヲ以テ之ニ向ヒ質問ヲ爲ス者モ往々之レアリ是レ配達ヲ遲滯シ一般ノ交通ヲ害スルニ付公衆ハ務メテ此ノ如キコトヲ避クヘシ要スルニ集配人ニ對シテハ力メテ其行走ノ便利ヲ妨ケサルコトニ注意スヘシ

二十二　家屋ノ番號札ハ成ルヘク筆太ニ且ツ鮮明ニシテ見易キ場所ニ掲クヘシ

番號札不明瞭ノ爲メ配達人入替ノ際ナト無用ノ時間ヲ費スコト多キ爲メナリ

二十三　住居人捜索ニ困難ナル場所ニ在リテハ適宜道シルベノ高札ヲ建ル等ノ工夫ヲ回ラスヘシ

例ヘハ廣漠ナル同番地内ニ數多ノ住居アル場所ノ如キハ番數ノ外ニ號數ヲ設ケ且ツ地主又ハ住居ハノ注意ヲ以テ回リ角ニ高札ノ類ヲ設ケ道シルベヲ示シ又番號ノ錯雜シ若クハ町名ノ入込メル場所ノ如キモ均シク回リ角ニ道シルベヲ掲クル等ノ工夫アルヘシ猶一歩ヲ進メテ云ヘハ町名錯雜セル市街地ノ如キハ市町吏員等ノ注

意ヲ以テ各町ノ始メ終リニ適宜ノ方法ニ依リ例ヘハ入口ノ家屋ノ屏塀ニ「是レヨリ何町何丁目」ト云フ標札ヲ掲クル如キ工夫アランコトヲ望ム是レ猶リ郵便電信ノ配達ノミナラス一般ノ交通上裨益スル所少カラサルヘシ

逓信省令第三十一號（明治三十年十二月一日）

●電話交換規則

第一章　總則

第一條　此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條　電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　電話加入

第三條　電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書（第一號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

第四條　電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　電話交換局ニ於テ加入申込書ヲ受理シタルトキハ電話加入申込原簿ニ登記シ申込順番ヲ申込者ニ通知スヘシ

第六條　電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順番ニ據ル但官廳公署及公共事業ノ用ニ供スルモノハ其順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第七條　加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セムトスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其家屋所有

者ノ承諾書（第二號書式）ヲ請求書ニ添附スヘシ

第八條　加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其請求書（第四號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書（第五號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條　加入申込者又ハ加入者同一戸内ニ於テ同一機械ノ回線中ニ普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ增設セムトスルトキハ其請求書（第六號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

前項ニ據リ增設シタル普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ撤去セムトスルトキハ其請求書（第七號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十條　加入申込者其申込ヲ取消サムトスルトキハ其請求書（第八號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十一條　加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス

前項ノ加入期間以後ハ每三月ヲ以テ加入期間トス

第十二條　加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書（第九號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求ヲ爲サヽル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ

第十三條　加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セムトスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ移轉セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十四條　加入者自己ノ加入ヲ他人ヘ讓渡サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書（第十號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セムトスル者ハ其相續人又ハ管理人タル證明書ヲ添ヘ其請求書（第十一號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十五條　第六條但書ニ據リ開通シタル電話加入ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十六條　電話加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス

第三章　電話通信

第十七條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機ニ依リ左ノ通話ヲ爲スコトヲ得

一　同一電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

二　他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

三　第十八條ニ據リ電話所ニ來リ通話スル者トノ通話

第十八條　電話所ニ來ル者ハ電話通信心得書ニ據リ同一電話交換局ニ屬スル加入者又ハ他ノ電話交換局ニ屬スル加入者ト通話ヲ爲スコトヲ得

第十九條　左ノ通話ハ每五分時間マテヲ以テ一通話時トス

一　電話所ニ來ル者ト加入者トノ通話

二　所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話
本條ノ通話ハ一通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス但他ニ通話請求者ナキトキハ此限ニ在ラス

第四章　料金

第二十條　加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ
特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ加入登記料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ
第二十一條　加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ
特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第八條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據リ機械ヲ增設シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ
第二十二條　加入者第十三條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ
加入者特別加入區域內ニ於テ機械ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ
第二十三條　電話所ニ來リ通話ヲ爲ス者ハ電話料ヲ納ムヘシ
所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話ヲ爲シタルトキハ其請求者ヨリ電話料ヲ納ムヘシ
第二十四條　電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ揭クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ其期ノ初月一日ヨリ十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ六月三十日マテ
第二期　七月一日ヨリ九月三十日マテ
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日マテ
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十五條　加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其期ノ末日ニ至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以內ニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ其加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ
第二十六條　加入者第十一條第一項ノ加入期間內ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其期間內ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納付スヘシ
加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ第八條第二項又ハ第九條第二項若ハ第十三條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ
第二十七條　電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ
一電話所ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其電話所ニ前納シ二通話時以上ニ渉リタルトキハ通話ヲ終リタル後其未納料金ヲ納付スヘシ
一加入者ハ一月分取纏メ翌月二十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ
第二十八條　加入登記料ハ加入申込ヲ爲スト

ノ指定スル期日マテニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ

第二十九條　加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話料、電話線接續料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條　左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

一加入登記料

一電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

第三十一條　加入登記料、電話線接續料及機械移轉料ハ其申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セス

電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話料モ已ニ郵便切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第三十二條　加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ增設機械ノ撤去若ハ電話機ノ變更ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セス

第四十條ニ據リ通話ヲ停止セラレタルトキモ亦同シ停止期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除セス

第三十三條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因ラスシテ電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亘ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若既納ノ電話使用料及附加料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第五章　雜則

第三十四條　加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス

第三十五條　電話交換局ハ時々吏員又ハ其所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此場合ニ於テハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十六條　電話交換局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其電線、機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第三十七條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因リ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第三十九條ニ違背セル所爲ニ依リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第三十八條　加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第三十九條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其

附属物品ヲ移轉シ又ハ其裝置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但水火其他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス

加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附属物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘカラス

第四十條　加入者電話使用料、附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日マテニ納付セサルトキ又ハ第三十七條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ

加入者前條第一項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ故ナク第三十五條ノ點檢ヲ拒ミタルトキハ七日以内ノ期間通話ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十一條　加入者第三十八條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ據リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滯納ノ金額ヲ納付セサルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スヘシ

加入者第三十九條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第二項ニ據リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第四十二條　前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ同一ノ電話交換局ニ加入申込ヲ爲スヲ得ス

第四十三條　電話交換局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其責ニ任セス

第六章　附則

第四十四條　此規則施行前ニ開通シタル電話機及電鈴ノ使用料ハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已ヲ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限リ其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第四十五條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ニ據リ加入者ハ第十三條ノ金額ニ據ル

第四十六條　此規則施行前ニ加入申込ヲ爲シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已ヲ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限リ其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第四十七條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

一日マテ尚明治二十三年遞信省令第八號同年遞信省令第十三號明治二十五年遞信省令第九號明治二十九年遞信省令第十二號及明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則第十三條及第十二條ノ期限ニ拘ハラス明治三十一年三月三十一日マテニ加入取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

（第一號書式）

加入申込書

私儀電話交換規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度仍テ左ニ電話機設置ノ場所ヲ記載シ（別紙承諾書相添ヘ）此段申込候也

年　月　日

何電話交換局御中

住所職業

何　某　㊞

一電話機設置場所　何市（郡區）何町（村）何番地何々家屋

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

（第二號書式）

承諾書

今般貴殿ニ於テ何地電話交換ニ加入ノ爲メ私所有ノ何市（郡區）何町（村）何番地何々家屋ニ電話機設置ノ趣ハ私ニ於テ故障無之候也

年　月　日

住所
家屋所有者　何某　㊞

何某殿

（第三號書式）

機械設置場所變更請求書

一電話加入申込順番（電話番號）

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成（右電話加入ノ）電話機（卓上電話機又ハ電鈴）（增設電話機、增設卓上電話機又ハ增設電鈴）ヲ左記ノ場所ニ變更（移轉）致度此段及請求候也

年　月　日

住所職業
何某　㊞

何電話交換局御中

一機械設置場所　何市（郡區）何町（村）何番地何家屋又ハ何所

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

（第四號書式）

卓上電話機請求書

一電話加入申込順番（加入申込書ト同時ニ差出スキハ番號ヲ記載スルヲ要セス）

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成電話機ヲ卓上電話機ニ致度此段及請求候也

年　月　日

住所職業
何某　㊞

何電話交換局御中

（第五號書式）

電話機變更請求書

一電話番號

私儀右電話加入ノ（右電話加入ノ電話機同線中ニ增設シタル）卓上電話機（普通電話機）ヲ普通電話機（卓上電話機）ニ變更致度此段及請求候也

年　月　日

住所職業
何某　㊞

何電話交換局御中

（第六號書式）

機械增設請求書

一電話加入申込順番（電話番號）
私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成（右電話加入ノ）電話機回線中ニ電話機（卓上電話機又ハ電鈴）何箇増設致度此段請求候也

年　月　日

何電話交換局御中

住所職業
何　某　印

（第七號書式）

増設機械撤去請求書

一電話番號
私儀都合ニ依リ右電話加入ノ電話機回線中ニ増設シタル電話機（卓上電話機又ハ電鈴）何箇ヲ撤去致度此段及請求候也

年　月　日

何電話交換局御中

住所職業
何　某　印

（第八號書式）

加入申込取消請求書

私儀都合ニ依リ右電話加入申込ヲ取消致度此段及請求候也

年　月　日

何電話交換局御中

住所職業
何　某　印

（第九號書式）

加入取消請求書

一電話番號
私儀都合ニ依リ何年何月何日限リ右電話加入ヲ取消致度此段及請求候也

年　月　日

何電話交換局御中

住所職業
何　某　印

（第十號書式）

加入譲渡請求書

第何番電話加入者　何　某

右ノ者今般都合ニ依リ右電話加入ヲ何某ニ譲渡度御許可ノ上ハ譲受人ニ於テ電話交換規則ニ遵ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ當事者連署ヲ以テ此段及請求候也

住所職業
（加入者何某管財人又ハ何々）
譲渡人　何　某　印

住所職業

年　月　日

何電話交換局御中

（第十一號書式）

加入繼承請求書

第何番電話加入者　何　某

右ノ者今般何々ニ付右電話加入ヲ私ニ於テ繼承致度御許可ノ上ハ電話交換規則ニ違ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ別紙證明書相添ヘ此段及請求候也

年　月　日

住所職業
繼承人　何　某　㊞

何電話交換局御中

讓受人　何　某　㊞

遞信省令第三十二號
明治三十年十二月　遞信省令第三十一號電話交換規則第二十九條ノ料金額ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十年十二月一日

遞信大臣　子爵　野村靖

一　加入登記料及電話使用料

地名	加入登記料	電話使用料	年額
東京	金五圓	金六十圓	特別加入區域内ノ町數ノ計算方ハ普通加入區域ヲ距ル電話線路ノ町程一町マテ毎ニ金二圓
大阪	金五圓	金六十圓	
京都	金十圓	金五十圓	
横濱	金十圓	金五十圓	
神戸	金十圓	金五十圓	
名古屋	金十圓	金五十圓	
堺	金五圓	金四十圓	

但町數ノ計算方ハ普通加入區域ヲ距ル電話線路ノ町程ト最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據ル

二　附加使用料

一　卓上電話機　同一箇毎ニ　金六圓

一　特別加入區域内ノ増設機械
　普通電話機　同　金十二圓
　卓上電話機　同　金十八圓
　電鈴　同　金三圓

三　電話料

一　同一電話加入區域内ハ一通話時マテ毎ニ金十錢

一　電話加入區域間ハ一通話時マテ毎ニ左表ノ如シ

從／至	橫濱
東京	金二十錢
橫濱	

從／至	大坂	堺	神戸
京都	金二十錢	金二十錢	金廿五錢
大坂	金十五錢	金二十錢	
堺	金二十錢		
神戸			

四　電話線接續料　特別加入區域內ノ町程一町マテ毎ニ　金　十　圓
但町數ノ計算方ハ特別加入區域內ニ於ケル新設電話線ノ町程ト普通加入區域ヲ距ル最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據ル

五　機械移轉料
一同一邸宅搆內ノ移轉　金　二　圓
一同一邸宅搆內ニ於テ電鈴及附屬物品ノミノ移轉　金　一　圓
一他ノ邸宅搆內ヘ移轉　金　十　五　圓

遞信省令第三十三號
電話依托電報規則左ノ通相定ム

明治三十年十二月一日

遞信大臣　子爵　野村　靖

電話依托電報規則

第一條　電話加入者ハ別ニ指定スル郵便電信局又ハ電信局ニ豫メ届出テ其使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第二條　電話依托電報ハ普通辭又ハ隱語ノ內國和文電報ニ限ルヘシ

第三條　電話依托電報ヲ發受シタル者ハ電報依托料トシテ電報一通毎ニ金五錢ヲ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ

第四條　電話依托電報ノ料金及電報依托料ニ充テタル郵便切手代ハ一箇月分ツヽ取纏メ通貨ヲ以テ第一條ノ郵便電信局又ハ電信局ノ指定スル出所及期日內ニ之ヲ納付スヘシ

第五條　前條ノ料金ヲ納付セサル電話加入者ハ此規則ニ據リ電報ヲ發受スルコトヲ得ス

鐵道略則

第一條　賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ヲサレハ汝テ列車ニ乘ル可ラス

第二條　手形檢査及渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サヽル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」ノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確證判然タル時ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條　途中「ステーション」ニテ乘組幷手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキトキハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘込ムコトヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルトキハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乘ルコトヲ得ヘシ

第四條　僞欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乘ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ增賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ルコトヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ンコトスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道毎ニ

第五條　列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車內旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乘ルコトヲ禁ス

第六條　疱瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

疱瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乘車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道毎リノ者ヨリ車外幷鐵道掛外ヘ退去セシムヘシ

第七條　吸煙幷婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」掛內吸煙ヲ禁セシ場所幷ニ吸煙スルコトヲ許サス且婦人ノ爲ニ設アル車及部屋等ニ男子妄リニ立入ルヲ許サス若右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外及鐵道掛外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第八條　醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ不限總テ列車乘組中又ハ「ステーション」幷鐵道掛內ニテ醉ニ乘シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道掛外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條　鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ不限漫リニ「ステーション」其他鐵道掛內ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆棚其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ處置スヘシ

第十條　機關車等ヘ乘込ヲ禁スル事
機關方幷火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラントス爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許シヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設サル車ニ乘リ又ハ乘ラントス爲ス可ラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條　鐵道地所ヘ妄リニ立入者取扱方ノ事
何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道搆内ヘ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻搆外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條　旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事
旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリトモ總テ之カ爲メニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其請取證書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且償金モ五拾圓ニ過ルコトナシ

第十三條　高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事
金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定證書金銀請拂證書地所建家活券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鎔細工物時計類其餘衣類或ハ玩弄物ノ装飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆器酒類麝香類絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ增賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條　牛馬獸類運送ノ事
牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送リ人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ增賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ增賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サヽル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルトモ牛一疋金貳拾圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金五拾圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條　發砲ヲ禁スル事
何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其搆内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條　爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事
鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」「ケロシン、ナイル」「トルペンタイ」（石炭油硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條　荷物目錄ヲ渡スヘキ事
荷物目錄ヲ渡スヘキ事

第十八條　物品並畜類損害償方定限ノ事
運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ諸取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ
鐵道ニテ運送スル物品並畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰脫漏ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條　荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尚拂ハサル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若又其荷物既ニ他所ニ運送セシ時ハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛リヘ送來ルコトアル時ハ之ヲ留置キ同人ヘ告知ラセタル上ニテ滯金高様ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニヨリ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金竝入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條　規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ車乘及ヒ荷物ノ運送ヲ許サヽルヘシ

第二十一條　規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革又加除アルトキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條　荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條

旅客竝荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルトハ雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道ノ鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ

◎鐵道犯罪罰例

壬申第百四十七號布告　鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

◎鐵道犯罪罰例　（別紙）

第一條　鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中酔ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス若　其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難ヲ生スルトキハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第二條　規則第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲者ハ貳拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第三條　規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條　規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二拾五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條　規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條　規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條　規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五拾圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條　規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條　規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條　規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條　規則第十七條ニ記スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三ケ月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物賞價千七百斤ヲ云毎ニ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス壹圓以下ハ拾圓以内尤一罰ノ賄金高五百圓ニ過キス

第十二條　鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但シ其償位ノ追徵モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フトキハ法官ニ於テ追徵スヘシ

◉鐵道畧則及鐵道犯罪罰例私設鐵道ニ適用ス

明治五年五月第四十六號布告鐵道略則及同六年三月第百一號布告鐵道犯罪罰例ハ私設鐵道ニモ適用ス

◉鐵道貨物手續

○鐵道ニて貨物を運送せんとするものハ貨物の等級ニ依りて運賃ハ相違あることヽ又貨物々澤山送るより貨切車ありて運賃の極めて低廉なることを知らざるべからず

○貨物の等級ハ一級より五級までありて之に級外品を加ふれば以上六級ある都合なり其の一級品ハ何々にして二級品ハ何々と云ふことハ一二頁の紙上ニ記載し難ニ依り其の詳細ある官私設鐵道各驛の貨物掛ニ就いて聞くべし

○一級品（穀物、紙、瓦、其他）の運賃ハ目方百斤ニ付一哩金貳厘

○二級品（乾魚、鹽魚、蠟、其他）の運賃ハ目方百斤ニ付一哩金三厘

○三級品（絲、古着、油、其他）の運賃ハ目方百斤ニ付一哩金四厘

○四級品（衣服、及物、籠、其他）の運賃ハ目方百斤ニ付一哩金五厘

○五級品（彫刻物、繩箔物、其他）の運賃ハ目方百斤ニ付一哩金六厘

○級外品（鶏籠、車、金銀器物、其他）の運賃ハ品物ニ依て異なり

○貨車借切幷ニ貨物割引賃金

○三級品以下の貨物一品（同種類の貨物ハ數品あるも一品と見做し取扱ふことあり）ニして一車以上の貸切ハ區間ニ依り一哩一噸ニ付金貳錢の割合なり

○米穀鹽肥料石炭等の粗雑ある貨物ハ區間ニ依り貸切車一哩一噸に付金壹錢五厘まで賃金を減額することあり

○三級品以下ノ貨物混淆積ニして一車以上の貸切ハ區間ニ依り一哩一噸ニ付金三錢の割

合あり

○四級品以上の貨物と雖も其品質と區間の實況とに依り特に三級品以下のものと同一の取扱をなすとあり

○同數ある往復貨車の貸切ハ區間に依り往復賃金額を四分の一以内減ずるとあり

○長距離に渉り十輛以上の貸切ハ特別に其賃金の減額をなす

○貸切車ハ哩程二十哩未滿ハ二十哩の賃金にして貨物一車未滿ハ一車分の賃金あり

○貸切車の貨物ハ其積卸貨主の負擔なり

○一個人若くハ一會社にして一ヶ月に金五千圓以上の貨物運賃を納むるものハ其割引左の如し但し直江津輕井澤線路に係るものハ他の各線に係るものと通算せず各別に計算す

○金五千圓以上八千圓未滿　百分の三〇金八千圓以上壹萬圓未滿　百分の四〇金壹萬圓以上　百分の五

○米穀の如きハ貸切貨車にて運送するときハ五十哩以上一哩一噸金壹錢五厘百哩以上同壹錢貳厘三百哩以上同壹錢の割合にして木材食鹽の如き物品も右と同じ割引あり

○特約運送ハ貨主より期限數量及區間を定め鐵道廳へ運賃の割引を請求するものにして鐵道廳にて承諾の上ハ貨主ハ其期限間に約束の數量を送り出すの責任あり

○三級品以下一品積の時同種類の貨物ハ數品あるも一品と見做すと云ふハ〆粕干鰯油糟を肥料として一品と見做し米麥豆粟の穀物として一品の賃金にて運送するの類あり

○四級品以上の貨物を三級品以下同樣の取扱をなすとハ金巾交織の如き四級品を三級品ある綿布と積合ハすの類あり

○巨大の物品二車或ハ二車以上を要するものハ一哩一噸金四錢

○量目五噸以上にして十噸積車一車に積み得べきものハ一哩一噸金貳錢五厘なり

上にして五噸積車一車に積み得べきものハ一哩一噸金三錢あり

○引越荷物を貸切車にて運送する時ハ一哩一噸金三錢あり

○生絲平絹ハ五級品なるも二百哩以上運送する物ハ四級品賃金あり

○石油摺附木ハ一車以上貸切五噸積ハ三級品以下一品の賃金なり

○繭ハ貸切車にて運送の時一哩一噸に付金三錢あり

○牛一頭一哩金三錢三頭以下ハ三頭分の賃錢なり但し長距離多數の運送ハ一車貸切一哩金拾錢又ハ八錢迄の割引あり

○馬一頭一哩金拾錢なれども貸切車なれば一車一哩金拾五錢なり以上の運賃ハ主として官設鐵道にのみ適用すべきものを記載したれども私設鐵道の運賃ハ右の割合より幾分か低廉なり

旅客手荷物幷ニ小荷物運賃

	里程	百哩以上五十哩（若クハ五十哩未満ニ毎ニ）	百哩迄	五十哩迄	廿五哩迄	備考
旅客列車ニテ運送スル手荷物及小荷物	無賃制限外手荷物	同	同	同	一斤ニ付五厘	
	賃金五銭未満ノモノハ支拂ヲ要セズ	同	同	同	一斤ニ付五厘	
旅客列車ニテ旅行スル行商幷呼賣商ノ所持スル商品	目方廿五斤迄	同	右ニ掲グル賃金ハ運送里程五十哩迄目方百斤迄ノモノニ限ル	貳拾錢	拾錢	
	目方五十斤迄	同		參拾錢	貳拾錢	
	目方百斤迄	同		五拾錢	參拾錢	
但緩急車ニテ運送スルモノ	最迅速郵便ニ次ノ社會諸會社ノ荷物ト同一ナルモノ	同	同	同	一斤ニ付壹錢	
	最低賃金五錢	同	同	同	一斤ニ付貳錢	
小荷物	通常小荷物	同	同	同	一斤ニ付貳錢	
	紙細工、漆器、造化、朝子、鞄キ家具等ノ如キ損シ易ク且嵩高ノ物品	同	同	同	一斤ニ付貳錢	
	最低賃金拾錢	同	同	同	一斤ニ付貳錢	
犬	子犬、子豚其他小獸幷ニ家禽其他鳥類	同	同	同	一頭ニ付貳拾錢	
	但籠網等ニ入レタルモノニ限ル	同	同	同	一頭ニ付貳拾錢	
	賃金ハ皆掛ケテ取ルベシ最低賃金拾錢	同	同	同	一頭ニ付貳拾錢	

○菜物、鮮魚、貨金五錢

○新聞紙、雜誌ハ遠近ヲ拘ラズ一斤ニ付金壹錢最低賃金五錢

◎新聞紙又ハ雜誌ノ托送ヲ特約スル時ハ運送金ヲ前納シ普通賃金ノ二割引但シ半ケ年一万五千斤以上托送ノ特約ヲナストキハ普通賃金ノ五割引

○死体　一人一哩ヲ付金貳拾錢最低賃金四圓滿十二歳以下ノ小兒ハ其半額

○馬車及荷車　二輪車ハ一輛一哩ニ付金壹錢最低賃金四拾錢

錢最低賃金參圓

○人力車　一輛一哩ヲ付金貳錢最低賃金壹圓

○駕籠及乘物　一個一哩ヲ付金五錢最低賃錢貳拾錢三輪車ハ一輛一哩ヲ付金壹錢五厘最低賃金貳拾錢

○自轉車　二輪車ハ一輛一哩ニ付金壹錢最低賃金四錢

但前記自轉車及小兒車ノ賃金ハ手荷物扱ヲ限ル小荷物扱ノトキハ其二倍ヲ取ルベシ

○小兒車一輛一哩ヲ付金壹錢最低賃金貳拾錢

○犬ハ表面ヲ掲ぐる割合ヲ以テ運送ス然レドモ客車ヲ載スル事ヲ謝絶ス犬箱ヲ入レ緩急車ニテ運送スベシ故ヲ持主ハ首輪首網口網ノ用意アルベシ尤モ運送ノ準備ハ常ヲ之ヲ爲サズト雖モ列車中餘地アル限リハ成ルベク便利ヲ圖リ其運送ヲ取行フベシ又一人若クハ數人ヲ以テ數多ノ犬ヲ運送セントスルトキハ二時間前ヲ申出アラバ最低賃金貳圓ヲ以テ馬運車一輛貸切其望ニ應ズベシ

○馬一頭　一哩ニ付金拾錢最低賃金貳圓持主一人ヲ以テ二頭運送スルトキハ一哩ヲ付金拾七錢五厘最低賃金參圓五拾錢若シ一頭ニテモ馬運車一輛ノ借切ヲ要スルトキハ二頭分ノ賃金ヲ取ルベシ

但馬運車を要するときは一時間前まで其旨申出らるべし且馬を運送する列車の刻限より少くも三十分前「ステーション」へ引込あるべし

○生獣は總て鐵道略則第十四條より從ひ運送すべし

○以上掲ぐる賃金の厘以下は錢位に切上ぐべし

○運送中より起りたる損失は持主の引受よりて鐵道局は其責より任ぜず

○以上掲ぐる賃金は持込配達の賃錢を込めず然れども小荷物より限り重ある場所より於ては其請取人の宿所まで配達すべし但配達賃は十斤迄の物品は金五錢十斤以上は十斤（若くは十斤未滿）毎より金壹錢の割合を以て送出人より受取るべし

○手荷物賃金は必ず前拂なるべしと雖ども發驛より受取らざる場合より於ては中間驛或は着驛より於て受取るべし

○小荷物及其他の物品は托送せんとする列車の刻限より少くも二十分前より「ステーション」の小荷物取扱所へ渡すべし否らざれば其次の列車より運送する事あるべし

○金銀貨幷地金銀、寶石、金玉細工物、紙幣、郵便切手及金銀より係る證書等貴重品は左の割合を以て運送すべし

里程	金銀貨幷地金銀、寶石、金玉細工物最低賃金五拾錢	紙幣郵便切手、金錢ニ係ル證書類最低賃金壹圓
二十五里迄	一斤付ニ付 貳錢	一斤ニ付 貳拾錢
五十里迄	同	同
百里迄	同	同
百里以上（若くは五十里未滿）毎ニ	同	同

五十里迄	同	參拾錢
百里迄	同	四錢
百里以上（若くは五十里未滿）毎ニ	同	壹錢

	同	參拾錢
	同	四拾錢
	同	拾錢

○鐵道局より托送の貴重品を安全より運送し及受渡より爲すため相當の注意を加ふべし然れども遲滯損失より一切其責より任ぜず

但遲滯損失掛員の疎愚怠慢に起因せるの確證ある場合より本文の限りにあらず

○貴重品より嚴重より封印し其運送を委托する「ステーション」より於て掛員の承認を受くべし

○鐵道局より貴重品運送を引受るとき其荷造完全なるや否やを調査することあるべし

○貴重品の運送より特より定めたる列車より限り取扱ふものとす故より托送者より「ステーション」より就き其時間等を問合すべし

○貴重品托送者より列車出發刻限より少くも三十分前送出「ステーション」の小荷物取扱所より現品を持參すべし

以上より官設鐵道の規定なれども私設鐵道も亦此の規定より從つて手荷物及小荷物を取扱ふ尤も運賃より各鐵道會社を通じて前記より運賃より割引するもの多く中より三割方も安き運賃より取扱ふ會社あり

○里程より參宮鐵道、大阪鐵道、筑豐鐵道の如きより五哩毎より運賃の相違ありて短距離の間

ゟ小荷物を送るにハ大ゟ便利あり
又阪堺鐵道の如きハ全く異ゟして犬を除くの外ハ量目幾斤何驛と何驛との間運賃幾錢と云ふの定めなり
○手荷物ハ鐵道局を始め各鐵道會社を通じて上等客ハ目方百斤、中等客ハ六十斤、下等客ハ三十斤を制限とす制限外ハ前記の表ゟ照らして相當の賃錢を拂ふべし
○小荷物ハ毎客車便ゟ運送するものなれバ商品の見本、親戚朋友の間ゟ贈受する少量の荷物運送ゟハ極めて安全ゟ且つ速達ハ便あり又鐵道線路の聯絡せる道中ハ其の各鐵道を通じて運送するゟ得るの便あり（例へバ官線の弘前驛發送の小荷物日本鐵道の奥州線及赤羽線を經て更に官線の東海道線ゟ移り最後ゟ山陽鐵道線を經て廣島驛ゟ着し同驛ゟ宛名の人に配達するの類）此の場合ゟハ運賃ハ總べて鐵道局の規程通りあり
○小荷物の配達ゟ就てハ官私設鐵道區々一定せず官設鐵道ハ重要驛ハ配達を爲し日本鐵道の如きハ各驛市町村内ゟ配達を爲し其他ハ概して官設鐵道の如く重要驛の市町村内ゟハ直配達を爲すの外ハ荷物取扱店ゟて取扱ふ尤も甲武鐵道ハ未だ配達を取扱ハすと云ふ
○小荷物ハ金貳錢を拂へバ二十四時間「ステーション」ゟ預け置くことを得若し二日間預り置くときハ更ゟ貳錢を增すべし途中驛にて用事ある旅行者ゟハ最便利なり

●鐵道敷設法（明治廿三年九月法律第四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道敷設法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鐵道敷設法

第一章 總則

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

中央線

一神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
一長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
一山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

中央線及北陸線ノ連絡線（明治三十年法律第六號ヲ以テ本項改正）

一岐阜縣下多治見ヨリ岐阜ニ至ル鐵道
一前項ノ線路ヨリ分岐シ若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

北陸線

一福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ石川縣下七尾ニ至ル鐵道
一京都府下舞鶴ヨリ福井縣下小濱ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道（明治二十八年法律第十一號

ヲ以テ本項ヲ追加ス）

北陸線及北越線ノ連絡線

一富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道

北越線

一新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣豐野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道

羽越線及岩越線（明治二十八年法律第十二號ヲ以テ本項改正）

一新潟縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道

一新潟縣下新津ヨリ福島縣下若松ヲ經テ白河、本宮近傍ニ至ル鐵道

奥羽線

一福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道

一宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小牛田ヲ經テ山形縣下舩形町ニ至ル鐵道

一農手縣下黒澤尻若ハ花巻ヨリ秋田縣横手ニ至ル鐵道

一農手縣下盛岡ヨリ宮古若ハ山田ニ至ル鐵道

總武線及常磐線

一東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道

一茨城縣下水戸ヨリ福島縣下平ヲ經テ宮城縣下岩沼ニ至ル鐵道

近畿線

一奈良縣下奈良ヨリ三重縣下上柘植ニ至ル鐵道

一大阪府下大阪若ハ奈良縣下八木又ハ高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一京都府下京都ヨリ奈良縣下奈良ニ至ル鐵道

一京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道

山陽線

一廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道

一廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

山陰線

一京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道

山陰及山陽連絡線

一兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道若クハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

一兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥

取縣下米子及境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

四國線

一香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道

一德島縣下德島ヨリ南項ノ線路ニ接續スル鐵道

一香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

九州線

一佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下佐世保及長崎ニ至ル鐵道

一熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道及宇土ヨリ分岐シ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道

一熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道

一福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道

一福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道

一福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道

以上ノ線路ニ變更增減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第三條　鐵道工事ハ緩急ニ應シテ其期限ヲ數期ニ區分シ每期ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條　鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條　鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條　鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第二章　第一期鐵道及公債募集

第七條　豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス

一中央豫定線ノ內「神奈川縣」下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第六號ヲ以テ東京府下八王子ヨリ山梨縣甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル線路ニ決ス）

一北陸豫定線ノ內福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

一北越豫定線ノ內新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豐野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル線路（明治二十七年法律第七號ヲ以テ新潟縣下直江津ヨリ新潟及新發田ニ至ル鐵道ニ決ス）

一奥羽豫定線ノ內福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道

一山陽豫定線ノ內廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

一九州豫定線ノ內佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下長崎及佐世保ニ至ル鐵道及熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道

一近畿豫定線ノ內京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第八號ヲ以テ京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル線路ニ決ス）

一近畿線ノ內大阪府下大阪若ハ奈良縣下高田若ハ八木ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第九號ヲ以テ奈良縣下高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル線路ニ決ス）

一山陰山陽聯絡豫定線ノ內兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道（明治二十七年法律十號ヲ以テ兵庫縣下姫路ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル線路ニ決ス）

一中央豫定線ノ內長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ第一項ノ線路ニ接續スル鐵道（明治二十七年法律第十一號ヲ以テ本項ヲ追加シ且同年法律第十二號ヲ以テ長野縣下篠ノ井ヨリ松本ヲ經ル線路ニ決ス）

一九州豫定線ノ內熊本縣下宇土ヨリ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道（同上）

以上線路ノ外ニ倘敷設ノ急ヲ要スヘシト認ムルモノアルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ更ニ第一期工事トシ特ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

比較線路ハ政府ニ於テ更ニ調査ヲ遂ケ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第八條　第一期鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ成効期限トス

第九條　第一期鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金六千萬圓ヲ限リ明治二十六年度ヨリ十二箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ（明治二十六年法律第十一號ヲ以テ明治二十五年度ヲ明治二十六年度ニ改ム）

第十條　政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第三章　私設鐵道ノ處分

第十一條　既成私設鐵道ニシテ第二條ニ依リ敷設スヘキ線路ノ爲買收ノ必要アリト認ムルモノハ政府ハ其ノ會社ト協議ノ上償額ヲ豫定シ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第十二條　私設鐵道買收ノ費用ハ公債ヲ發行シ代價トシテ其ノ會社ニ交付スヘシ

第十三條　豫定鐵道線路中私設會社ニ敷設ヲ許可シタルモノハ其ノ會社ノ全部線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲナシタル上ニアラサレハ之ヲ敷設セス

第十四條　豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章　鐵道會議

第十五條　政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス

一鐵道工事着手ノ順序

一第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其都度募集スヘキ公債金額

第十六條　鐵道會議ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎北海道鐵道敷設法（明治二十九年五月法律第九十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道鐵道敷設法ヲ裁下シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道鐵道敷設法

第一條　政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

第二條　北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

一石狩國旭川ヨリ十勝國十勝太及釧路國厚岸ヲ經テ北見國網走ニ至ル鐵道

一十勝國利別ヨリ北見國相ノ內ニ釧路國厚岸ヨリ根室國根室ニ至ル鐵道

一石狩國旭川ヨリ北見國宗谷ニ至ル鐵道

一石狩國雨龍原野ヨリ天鹽國增毛ニ至ル鐵道

一天塩國奈與呂ヨリ北見國網走ニ至ル鐵道

一後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道

第三條　北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ數區ニ分チ每區ノ工事ヲ繼續事業トス

第四條　北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條　北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條　北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第七條　北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百萬圓ヲ限リ明治三十年度ヨリ工事ノ緩急ト財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集ス

第八條　政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第九條　明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第十四條、第十五條ハ本法ニ適用ス

土地收用法（明治二十二年七月法律第十九號）

廢土地收用法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章　總則

第一條　公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條　左ノ種類ノ工事ヲ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一　國防其他兵事ニ要スル土地

二　政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三　官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四　鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

五　河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六　防火及水害豫防竝檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條　前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書竝圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書竝圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條　内閣ニ於テ工事ヲ認定シタル時ハ官報ヲ以テ起業者及起業地竝工事ノ種類ヲ公告スヘシ國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有及關係人ニ通知スヘシ

第二章　土地收用ノ手續

第五條　工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事進備ノ爲メ其土地ニ立入リ測量又ハ檢查ヲ爲スコトヲ得

第六條　前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事進備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但進備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條　工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入リ測量又ハ檢查ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者

及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ檢査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ

但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條　工事ノ仕樣及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕樣書竝圖面及補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕樣書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ揭ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審查委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審查委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

一　收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目竝隣地ノ番號地目

二　收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ

三　土地臺帳登記簿ニ依リ知リ得ヘキ所有者及關係人ノ氏名

四　收用又ハ使用ノ時期

五　損失ヲ補償金額竝其內譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條　地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縱覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地收用審查委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條　收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以內ニ意見ヲ申立ルコトヲ得ス

第十一條　地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審查委員會ヲ開クヘシ

土地收用審查委員會ハ仕樣其他ノ手續ヲ審查シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ時期竝補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑒定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調查セシムヘシ

第十二條　土地收用審查委員會ハ七日以內ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限內ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條　地方長官土地收用審查委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者竝關係人ニ達セシムヘシ

第十四條　地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕樣ニ關スル裁決ニ服セス內務大

臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條　土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所

第十六條　起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章　損失補償

第十七條　收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價値ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條　收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ

土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條　收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條　收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ有所者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條　收用又ハ使用ノ土地ニ屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條　有所者補償金額ヲ增サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ增加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條　土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因ヲ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ

書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ竢テ拂渡スヘシ

第二十四條　補償金ノ受取人之ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置ノヘシ

第二十五條　工事ノ仕用竝補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人之カ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキ

モ亦同シ

若シ保證ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條　收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以內ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審查委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條　天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條　國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章　土地收用審查委員

第二十九條　土地收用審查委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス（明治二十四年勅令第百九十六號ヲ以テ土地收用審查委員ノ事務ハ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣參事會ヲ行フコトヽ爲セリ）

工事ノ仕樣ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條　起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人竝其父子兄弟ハ土地收用審查委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ闕員ヲ生スルトキハ補闕員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條　土地收用審查委員ノ選定スル鑑定人竝第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條　土地收用審查委員會ハ起業者竝所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條　土地收用審查委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章　雜則

第三十四條　收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審查委員會幷第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條　起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ所在不分明ナルトキハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條　前條ノ通知後二箇月以內又ハ公告後六箇月以內ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲ササルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條　起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルトキハ舊所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條　國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條　北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審查委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條　市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戶長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條　明治八年太政官第百三十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◉土地收用協議會規則　（明治二十三年七月法律第五十四號）

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ揭キ其工事ノ仕樣及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條　第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者（官ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏）及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕樣ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サヽル者アルトキハ工事ノ仕樣及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條　出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條　協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審查委員會ノ裁決ヲ求ムル旨メ土地收用法第八條第二項手續ヲナスヘシ

第五條　出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

◉市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱方　（明治二十三年二月法律第十號）

朕市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

市町村制實施以前區戸長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町村長ニ對スル行政訴訟ハ從前區戸長ニ對スル事件ニ準シ「始審裁判所」ニ於テ取扱フヘシ但明治二十二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス

土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

㊟北海道國有未開地處分法（明治三十年三月法律第二十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道國有未開地處分法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道國有未開地處分法

第一條　北海道國有未開地ノ賣拂、付與、交換及貸付ノ處分ハ此ノ法律ニ依ル

第二條　前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競爭ニ付セス

第三條　開墾牧畜若ハ植樹等ニ供セムトスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與スヘシ

前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ貸付地ハ全部成功ニ至ラスト雖土地整理上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ其ノ成功地ノ全部若ハ一部ヲ付與スルコトヲ得

第四條　公用若ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セントスル土地ハ直ニ賣拂付與又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條　市街地、市街豫定地其ノ他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競爭ニ付シ直ニ賣拂フコトヲ得

第六條　社寺地又ハ墓地ニ供セムトスル土地其ノ他事業ノ目的ニ由リ必要ト認ムル土地ハ直ニ賣拂フコトヲ得

第七條　素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條　民有地ト交換スルコトヲ得ヘキ土地ハ其ノ評定價格相均キモノニ限ル

第九條　土地ノ貸付ハ在ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

無償貸付　十箇年

有償貸付　十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ貸付期間ノ半期間マテ延期スルコトヲ得

第十條　第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功ノ程度ニ從ヒ臨時其ノ成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條　貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテハ其ノ評定價格ニ由リテ辨償スルモノトス

費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價格ニ由リテ辨償スルモノトス

前項ニ揭クル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條　左ノ場合ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由ルモノヽ外賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一　第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ一箇年以內ニ事業ニ著手セサルトキ

二　第四條及第六條ニ依リ賣拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以內ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

三　第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以內ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十三條　左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一　第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間內ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二　第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セスシテ返還シ又ハ第十二條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條　第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間內ニ於テ之ヲ除去スヘシ若其ノ期間內ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條　左ノ貸付地ニ限リ行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ擔保ニ供シ又ハ賣買讓與スルコトヲ得

一　第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二　行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域內ニ於ケル貸付地

三　命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條　第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以內ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ經過シテ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス、

第十七條　第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレハ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受クルヲ得ス但相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　此ノ法律ニ依リ賣拂付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス

第十九條　第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附　則

第二十條　此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之ヲ適用ス但此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限リ五箇年以内貸付期間ヲ延期スルコトヲ得

第二十一條　此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條　此法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

◉北海道國有未開地處分法ニ依レル貸付地面積制限ノ件

（明治三十年四月勅令第九十八號）

朕北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地ノ面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付スルコトヲ得

一　開墾ニ供スル土地　百五十萬坪

二　牧畜ニ供スル土地　二百五十萬坪

三　植樹ニ供スル土地　二百萬坪

會社又ハ組合ニ對シテハ前項地積ノ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

◉製茶稅則　（明治二十九年十月律令第九號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル製茶稅則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

製茶稅則

第一條　凡ソ製茶ヲ業トスル者ハ此稅則ニ從ヒ製茶稅ヲ納ムヘシ

第二條　製茶稅率ハ製茶百斤ニ付金二圓四十錢トス

第三條　製茶業者ハ製茶ヲ販賣若ハ運搬スル以前ニ於テ納稅檢查所ニ到リ現品ノ檢查ヲ受ケ前條ノ製茶稅ヲ納付シ其納濟證書ヲ申受クヘシ

第四條　製茶ヲ運搬スルトキハ納濟證書ヲ現品ニ添付シ租稅檢查所ノ檢查ヲ受ケ其ノ納濟證書ハ最後ノ檢查所ニ納付スヘシ

第五條　製茶業者若ハ製茶ノ仲買運送等ヲ營業トスル者ノ家屋倉庫其ノ他ノ場所及營業ニ關スル簿書物品ハ當該官吏之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第六條　第三條ヲ犯シタルトキハ當事者雙方ヲ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ尙現在ノ製茶ヲ沒收ス但賣渡シタル場合ニ於テハ其代金ヲ追徵ス

第七條　第四條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　本稅則施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第九條　製茶業者ニ於テ此稅則施行以前ヨリ持越シタル製茶ニ對シテモ仍此稅則ヲ適用

ス

第十條　本稅則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

◉樟腦油稅則　（明治三十年八月律令第九號）

臺灣總督ハ茲ニ緊急ノ必要アリト認メ明治二十九年法律第六十三號第三條ニ依リ樟腦油稅則ヲ發布ス

樟腦油稅則

第一條　樟腦油製造營業者ハ樟腦油百斤ニ付金三圓ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第二條　納稅未濟ノ樟腦油ト樟腦トヲ混和シ又ハ納稅未濟ノ樟腦ト樟腦油トヲ混和シタルトキハ全數量ニ對シ樟腦稅ヲ課ス

第三條　樟腦油ノ營業及取締ニ關シテハ明治二十九年律令第十二號ヲ適用ス但樟腦ノ營業又ハ仕入、出賣鑑札ヲ受ケタル者ニアラサレハ樟腦油ノ營業又ハ仕入、出賣ヲ爲スコトヲ許サス

附則

第四條　此稅則ハ明治三十年九月一日ヨリ施行ス

第五條　樟腦製造營業者又ハ樟腦油ノ仲買若ハ搬出營業者ニ於テ此稅則施行以前ヨリ持越シタル樟腦油ニ對シテモ仍稅則ヲ適用ス

◉樟腦油稅則施行規則

樟腦油稅則施行規則左ノ通相定ム

樟腦油稅則施行規則

第一條　樟腦油營業者ハ樟腦營業場以外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　樟腦稅則ニ依リ鑑札ヲ受ケタル者ハ樟腦油營業鑑札ヲ受クルニ及ハス

第三條　樟腦稅則施行細則第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十二條ノ規定ハ樟腦油營業者ニモ之ヲ適用ス

第四條　第一條ニ違背シタル者又ハ帳簿及送狀ノ保存ヲ爲サス及帳簿ノ調製記載ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　營業ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シ若ハ故ラニ記載ヲ爲サヽル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

（明治三十年九月臺灣總督府令四十號）

◉新聞紙條例

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由シテ內務省ニ屆出ヘシ

第二條　新聞紙發行ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號　二　記載ノ種類　三　發行ノ時期　四　發行所及印刷所　五　發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齡

務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條　屆出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以內ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ

第四條　發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以內ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出ヘシ其屆出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條　發行ノ屆出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其屆出ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內國人ニシテ滿二十歲以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人ト

ナルコトヲ得ス

第七條　編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ納ムヘシ

一　東京ニ於テハ千圓　一　京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓　一　他ノ地方ニ於テハ三百五拾圓

一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條　保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條　第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナサシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條　新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條　新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ一部管轄廳（東京府ハ警視廳）及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルヽトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論説ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載ス

スルコトヲ得

第十八條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得

第十九條　刪除

第二十條　刪除

第二十一條　外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發行頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條　外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條　第廿二條第卅二條及第三十三條ニ關シ告發ヲナスキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假リニ之レヲ差押ヘ其告發ニ關スル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二及第三十三條ヲ犯シタル新聞ノ發行ヲ禁止スルコヲ得

第二十四條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人トシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除ク外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀　罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條　裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ノ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條　第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキ

ハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條　第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條　第二十二條ノ禁令ヲ犯シタル發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第卅一條ノ二　第廿三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條　社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條　時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

◉公文ヲ新聞紙ニ記載スルヲ禁ス

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候儀不相成候此旨相達候事

◉新聞紙條例中傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論記載方

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

◉官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述スル事不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

●出版法

第一條　凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ屆出ツルヿヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若クハ著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ屆出ヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルヿヲ得

第七條　文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條　文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第九條　書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番付諸種ノ用紙讀書ノ類及寫眞ハ第二條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽ者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省畧スルヿヲ得

此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條　一タヒ出版屆ヲシタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖若改正增減シ又ハ註解、附錄、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條　演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ

演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽトキハ演說者若ハ講義者若ハ筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシムヽ

第十三條　二種以上ノ著作者ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條　飜譯ハ飜譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條　學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版屆ニ署名シタル代表者ヲ以ヲ著作者ト看做スヘシ

第十六條　罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ關レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救證シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルヿヲ得ス

第十七條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルヿヲ得ス

第十八條　外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルヿヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルヿヲ得ス

第十九條　安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルヿヲ得

第二十條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ貳圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及タ稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條　政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條　風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルヽ文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條　第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條　此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ渉ルトキハ內務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレバ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條　文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

版權法

第一條　凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖書ヲ飜刻スルヲ僞版ト云フ

第二條　出版法ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者又出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條　版權ノ保護ヲ受ケント欲スル者ハ發行前登錄料トシテ　一　普通文書ノ圖書　一冊毎ニ金二圓五拾錢　三　出版スル文書圖書　一冊毎ニ金五拾錢　四　與行權ヲ併有スル脚本　一種毎ニ金五拾圓　五　雜誌ノ類　一冊毎ニ金五拾錢　四　與行權ヲ併有スル樂譜　一種毎ニ金二拾五圓　六　寫眞　一版毎ニ金五圓ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖書ヲ官版ヲ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條　版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第六條　內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條　版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

飜譯書ノ版權ハ飜譯者ニ屬シ飜譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス

官廳、學校、會社　協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳學校、會社　協會等ニ屬スルモノトス

二種以上ノ著作若ハ講義演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其部分ニ付本項ヲ適用セス

書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス

第八條　版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條　版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ手數料トシテ五拾錢ヲ納ムヘシ

版權登錄謄書ニ誤謬アリタルトキハ其理由ヲ記シ其ノ更正ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手數料トシテ五拾錢ヲ納ムヘシ

第十條　版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ出版ノ月ヨリ起算スト雖モ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　版權ノ保護ハ其ノ文書圖畫ヲ改正增減シ又ハ註解、附錄、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖畫ニ挿入シタル寫眞ニシテ單ニ其ノ文書圖畫ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖畫ト共ニ版權保護ヲ受クルモノトス

第十三條　版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條　文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月內ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條　新聞紙ニ於テ二號以上ニ渉リ記載シタル論說、記事又ハ小說及二號以上ニ渉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年內ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條　版權所有ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條　僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末僞版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條　僞版ニ關ル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條　版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ增減シ註解、附錄、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者

ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條　翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條　著作者又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノヲ湊合シテ亦僞版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモ亦同シ

第二十三條　文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條　內國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條　僞版ノ訴アリテ其ノ僞版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條　僞版ニ關ル損害賠償　時效ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條　僞版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ二拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條　版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條　第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用サス

第三十一條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條　從前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ從前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

○内務省令第七號

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通リ之ヲ定ム

明治二十六年四月二十日　内務大臣　伯爵井上　馨

第一條　凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出スヘシ

第二條　出版法第七條第八條ニ依リ文書圖畫ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條　他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摸寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スルモノハ其紙面中ニ臨寫若クハ摸寫者誰ト記載スヘシ

第四條　出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ（何年月日内務省許可）ト記載スヘシ但明治二十年十二月勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ノ亦同シ

第五條　版權法第十一條第二項ニ□リ版權登錄願ノ手續ヲ省畧セント欲スル者　豫メ大約一ケ年出版ノ分隨意取束ヲ版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條　外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付スヘシ

第七條　出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式雜誌版權登錄願ハ第四書式寫眞版權登錄願ハ第五書式版權登錄證再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

第八條　出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登錄願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖畫ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

第九條　專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラントト欲スルモノハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省畧セントト欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ

第十條　版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式寫眞版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十一書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニヨリ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ係ル

第十一條　此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年一月内務省令第一號明治二十三年三月同省令第一號明治二十五年三月同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス

第一書式　用紙美濃紙

出版御届

一書名　　全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニシテ今般出版候條製本二部相添此段御届申上候也

年　月　日

住所　　發行者　氏　名　印

住所　　著作者(相續者)氏　名　印

内務大臣(伯爵)何誰殿

第二書式　用紙同上

再版御届

一書名　　全何冊(枚)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ何年月日出版(發行)致候處改正(增減、附錄、註解、繪圖)等相加へ今般再版候條製本二部相添此段御届申上候也

年　月　日

住所
發行者　氏　名　印

住所
著作者　氏　名　印

内務大臣(爵)何誰殿

第三書式　用紙同上

版權登錄願

一書名　　全何冊(枚)　壹部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢　六部ノ定價金五十錢ニ滿タサルモノハ登錄料金五十錢ト記載シ其拾圓ヲ超ユルモノハ登錄料金拾圓ト記載スヘシ

登記印紙　印
登記印紙　印
登記印紙　印

右何年月日出版御届致候處版權登錄被下度此段相願候也

年　月　日

住所
版權所有者　氏　名　印

内務大臣(爵)何誰殿

第四書式　用紙同上

雜誌版權登錄(手續省略)願

一書名　　第何號(自第何號至第何號)何冊　一部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本各號六部ノ定價金何圓錢　金五十錢ニ滿タサルモノハ登錄料金五十錢ト記載シ拾圓ヲ超ユルモノハ登錄料金拾圓ト記載スヘシ

登記印紙　印
登記印紙　印
登記印紙　印

右ハ何年月日出版御届致ス「ヘク」「出版注ニ依リ出版致スヘク」「新聞紙條例ニ依リ發行致スヘ

ノ」）候處版權登錄被下度此段相願候也

年　月　日

住所
編輯者　氏　名　印

内務大臣（爵）何誰殿

第五書式　用紙同上

寫眞版權登錄願

一物象ノ名　何枚　壹部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢

登記印紙　登記印紙　登記印紙

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニシテ今般發行致候條版權登錄被下度見本二葉相添此段相願候也

年　月　日

住所
版權所有者　氏　名　印

内務大臣（爵）何誰殿

第六書式　用紙同上

（寫眞）版權登錄證書再度御下付願

（寫眞）版權登錄番號

一書名（物象ノ名）　全何冊（枚）

此手數料金五拾錢

登記印紙

右何年月日版權登錄御許可ヲ受ケタル處何々ニ依リ毀損（紛失）候條版權登錄證更ニ御下付被下度此段相願候也

年　月　日

住所
版權所有者　氏　名　印

内務大臣（爵）何誰殿

第七書式　用紙同上

學術（技藝、統計、廣告）雜誌出版御屆

一書名

第何

右ハ專ラ何々ノ學術（技藝、統計、廣告）ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回發行致スヘキモノニ候處出版法ニ依リ出版候條製本二部相添此段御屆申上候也

年月日

住所
編輯者　氏　名印
住所
發行者　氏　名印

內務大臣(爵)何誰殿

第八書式　用紙同上

一書名　學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省畧願
第何號ヨリ

右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎年(月)何回出版法ニ依リ出版可致候條同法第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御屆ニ不及發行前製本ノミ相納候樣致度此段相願候也

年月日

住所
編輯者　氏　名印
住所
發行者　氏　名印

內務大臣(爵)何誰殿

第一條　演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條　演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條　演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條　演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條　興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

◉寫眞版權條例

朕寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

◉寫眞版權條例

第一條　凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬ス但法人ノ囑托ニ係ルモノ、寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

第三條　寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條　版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサルハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條　內務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖畫ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條　寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條　寫眞版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條　版權ノ保護ヲ受クル寫眞ハ之ヲ器眞シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ增製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫眞畫ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑託ニ係ル寫眞ヲ增製スルコトヲ得ス

第九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

第十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫眞又ハ摸寫物損害賠償ノ責ハ其原寫眞ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十二條　條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首輕減再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

集會及ヒ政社法

第一條　此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條　政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開ノトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會協所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ヘシ

政談集會ノ屆出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

一　集會ノ場所　二　集會ノ年月日時　三　發起人ノ氏名、住所　四　講談論

議者ノ氏名

前項ノ屆出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收證ヲ交付スヘシ

屆書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若クハ三時間以上中斷スルトキハ屆出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ屆出ヲ要セス

第三條　屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若クハ多衆運動センストスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域內ニ限ルモノトス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條　帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以內ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之レヲ適用ス

第五條　左ニ揭クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

一　日本臣民ニ非サル者　二　公權剝奪及停止中ノ者

第六條　左ニ揭クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人　二　警察官　三　官立公立私立學校ノ教員學生生徒　四　女子　五　未成年者

第七條　政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第八條　警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條　集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ敎唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條　集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講

談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一　集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ　二　警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ情ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ　三　會衆騷擾ニ渉リ警察官之ヲ制止スルモ鎭靜セサルトキ　四　第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ　五　集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條　第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ罰前項ニ同シ

第十五條　第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第五條第六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條　第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退出セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以內ニ其役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條　政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會場及諸談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條　左ニ揭クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人　二　警察官　三　官立公立私立學校ノ教員學生生徒　四　女子　五　未成年者　六　公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條　政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條　政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰサルコトヲ得ス

第二十六條　政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條　政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付責任ヲ責ハシムルノ規定ヲ設クルヲ得ス

第二十八條　政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條　結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ內務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條　第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ屆出ヲ爲スモ宣ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十一條　第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳拾四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條　第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ

第三十三條　第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條　此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ六ケ月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十七條　法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

◎官吏公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得

凡官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ